

令和2年度 教育委員会
自己点検・評価報告書

令和3年11月

香南市教育委員会

目 次

点検及び評価の概要	1
自己点検及び評価の構成	2
1. 教育委員会の活動	3
(1) 教育委員会の会議	3
(2) 教育委員会と事務局との連携	3
(3) 教育委員の自己研鑽	3
(4) 支援・条件整備	3
(5) 広報・情報公開	4
2. 教育委員会が管理・執行する事務	8
(1) 香南市教育行政の基本方針を定めること	8
(2) 学校その他の教育機関の設置、廃止及び変更に関する事	8
(3) 教科用図書採択及び教材使用に関する事	8
(4) 教育委員及び事務局職員の任免その他の人事に関する事	8
(5) 香南市立学校教職員の異動方針・異動に関する事	8
(6) 教育委員会の附属機関等の委員の委嘱に関する事	8
(7) 教育予算その他、議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること	10
(8) 児童生徒の就学すべき学校の校区を設定し、又はこれを変更すること	10
(9) 教育委員会条例・規則等の制定又は改廃に関する事	10
(10) 議会の議決を経るべき議案の原案決定に関する事	10
3. 管理・執行を教育長に委任する事務	11
(1) 生きる力を育む就学前・学校教育の推進	11
1) 保幼小中連携（一貫）教育の推進	11
2) 家庭や地域と連携した教育の推進（チーム学校の取組）	12
3) これからの社会を生き抜く力を育む教育の推進	17
4) きめ細かな教育の推進	23
5) 安全な教育環境での教育の推進	26
(2) 生き生きと学ぶ生涯学習の推進	28
1) 生涯にわたり豊かな心を育む環境づくり	28
2) 文化の継承と振興	32
3) 生涯にわたり親しみ高めあうスポーツの振興	33
4. 成果指標の点検・評価結果一覧表	36
5. 成果指標の点検・評価結果	40
6. 学識経験者からの意見	74

点検及び評価の概要

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、すべての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を実施することが義務づけられました。

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び教育委員会事務局が広範かつ専門的な具体の教育行政事務の効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任があります。

このため、教育委員会の運営及び事務局の事務執行の状況について、学識経験を有する者の知見の活用を図りつつ点検・評価を行うこととし、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないとされました。

本報告書は、香南市教育振興基本計画後期計画及び令和2年度香南市教育行政方針と対比し、計画の目標指標や方針に対しての達成状況を明確にすることで、具体的に達成状況が判断できるようにしました。

また、点検・評価は、客観性を確保するため学識経験者の意見・助言を受け、教育委員会で審議し、「令和2年度教育委員会自己点検・評価報告書」としてまとめ公表することとします。

自己点検及び評価の構成

1) 項目

自己点検・評価は、「1. 教育委員会の活動」、「2. 教育委員会が管理・執行する事務」、「3. 管理執行を教育長に委任する事務」の3つの大項目で構成し、必要に応じて細分化し、項目毎に点検・評価を行いました。

2) 目標、重点取組事項

令和2年度香南市教育行政方針を基に「目標」及び「重点取組事項」を記載しています。

3) 取組の概要

各項目の目標達成に向けて、令和2年度に実施した主な取組を記載しています。

4) 成果、課題

令和2年度に実施した主な取組の成果と今後の課題や取組の方向性を記載しています。

5) 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、「香南市教育振興基本計画後期計画」における成果指標について、令和2年度の施策の進捗状況や今後の課題等を項目ごとに評価し、4段階評価を行いました。評価の判断基準は次のとおりです。

評 価	判 断 基 準
A	目標・計画どおりに取組を実施し、充分成果がでている。
B	目標・計画どおりに取組を実施し、ある程度成果がでている。
C	目標・計画どおりに取組を実施したが、あまり成果がでていない。
D	目標・計画どおりに取組を実施できなかった。

5) 学識経験者からの意見

本市の教育について、学識経験を有する方からご意見、ご助言をいただきました。

氏 名	役 職
中村 直人	高知工科大学教授

開かれた教育行政をめざして

1. 教育委員会の活動

[目標]

1. 開かれた教育行政の充実に努める。
2. 教育委員会、事務局、学校その他の教育機関との連携を密にし、情報意見交換を積極的に行い、円滑な教育行政の推進に努める。
3. 教育委員は、学校行事や学校訪問等の様々な機会を捉えて、保護者や地域、教育現場の意見等を聴き、課題を把握し、教育施策に反映するよう努める。

(1) 教育委員会の会議

①開催状況

会議名	回数	議案件数	報告等件数
定例会	12回	113件	40件
臨時会	4回	17件	7件
計	16回	130件	47件

②運営上の工夫

議案・資料を事前に配布し内容を確認したうえで、積極的な意見交換が行えるよう努めた。また、余裕のある会議時間を設定し十分な審議が出来るように努めた。

(2) 教育委員会と事務局との連携

適宜、協議や意見交換を行いながら、一層の連携が図れるよう努めた。

(3) 教育委員の自己研鑽

国や県の動向を踏まえ、今日的な教育に関する課題や教育の実態をテーマとした教育委員の研修会に積極的に参加するよう努めた。

令和2年度の研修は、新型コロナウイルス感染症の影響によりすべて中止となった。

(4) 支援・条件整備

①学校訪問・支援

教育委員会による計画訪問については、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から参加人数の縮小や時間短縮などの対策を講じたうえで中学校区ごとに保育所・幼稚園で1園と小・中学校で1校を選定して実施し、現状における学校等への新型コロナウイルス感染症の影響の確認、具体的な感染防止対策の確認、感染症対策の課題などの協議を行った。また、学校等の経営や教育・保育内容に対する助言・指導を行うとともに、課題解決に対する支援を行った。

訪問日	保育所・幼稚園名	訪問日	小・中学校名
R 2. 10. 20	吉川みどり保育所	R 2. 10. 20	赤岡中学校
R 2. 11. 16	夜須幼稚園	R 2. 11. 16	夜須小学校
R 2. 11. 19	野市東幼稚園	R 2. 11. 19	野市東小学校
R 2. 11. 20	香我美おれんじ保育所	R 2. 11. 20	香我美小学校

②所管施設訪問・支援等

新型コロナウイルス感染症の影響により、所管施設のほとんどの行事が中止となり、行事参加等ができなかった。

(5) 広報・情報公開

広報「こうなんNOW」による情報発信を行った。

掲載月	内 容
4月号	<ul style="list-style-type: none"> * 卒業式 (中学校) * 就学援助費のお知らせ * 第14回香南市美術展覧会 * としょかんナビ * 香南市に聖火がやってくる * 香南市高齢者学習講座の受講生の募集 * 令和2年度中央生活学級生の募集 * 2020年度香南市成人式実行委員の募集 * 公民館教室のお知らせ (フラワーリースづくり、和菓子作り) * 安岡章太郎生誕100周年記念展 * 文芸 (野市短歌会)
5月号	<ul style="list-style-type: none"> * 香南市人生支援計画 (こうなんファミリーサポートセンターの利用場所の拡大) (放課後児童クラブの増設) * 新教育委員任命のお知らせ * 教育委員会の取り組み * ファミリーサポートセンター会員募集のお知らせ * としょかんナビ * 令和元年度香南市スポーツ賞 * 安岡家住宅の報告書の刊行について * 公民館教室のお知らせ (七夕飾り) * 新型コロナウイルス感染症の拡大防止による社会教育施設等の利用制限について * 文芸 (たちばな会)

6月号	<ul style="list-style-type: none"> *としょかんナビ *がんばりゆう記（夜須絵手紙サークル） *公民館教室（陶芸ランプシェード）のお知らせ *文芸（花野句会）
7月号	<ul style="list-style-type: none"> *としょかんナビ *第14回香美・香南地区短詩型文学振興大会の作品の募集 *公民館教室（手作り日傘、プリザーブドフラワー、レザー、貝殻工芸）のお知らせ *YASU海の駅クラブ夏休み子供教室のお知らせ *イベント中止のお知らせ （夏休みこども教室、香南市いきいきセミナー） *文芸（やす短歌にしたしむ会）
8月号	<ul style="list-style-type: none"> *学校閉庁日のお知らせ *文化財センター展示室リニューアル *野市図書館のイベント情報（アジアのくらし） *としょかんナビ *がんばりゆう記（のいち絵手紙の会） *公民館教室のお知らせ（草木染め、ストリングアート） *展示会（夜須の少年兵が残したまんがと絵手紙）のお知らせ *安岡家住宅のボランティアガイド募集 *文芸（百人一首・俳句・短歌の会）
9月号	<ul style="list-style-type: none"> *重要文化財安岡家住宅一般公開のお知らせ *としょかんナビ *各地区の運動会中止のお知らせ *公民館教室のお知らせ（新聞ミニバッグ、あずま袋） *文芸（吉川町短歌をたのしむ会）
10月号	<ul style="list-style-type: none"> *特定教育・保育施設（幼稚園・保育所等）への入園・入所申し込みのお知らせ *野市図書館月間イベント（わくわく読読のいち図書館） *としょかんナビ *まちの文化祭のお知らせ（野市町文化祭（展示）） *公民館教室のお知らせ （お家でできるお灸、レザークラフト、草木染め） *文化財巡り（秋の姫倉城跡）の参加者募集 *文芸（野市短歌会）

1 1月号	<ul style="list-style-type: none"> *重要文化財安岡家住宅一般公開（記事掲載） *重要文化財安岡家住宅一般公開（おしらせ） *としょかんナビ *がんばりゆう記（山北ナツメロ同好会） *公民館教室のお知らせ（英語であそぼう、お正月飾り作り） *令和3年香南市成人式の開催について *まちの文化祭（香我美町文化祭・芸能大会）の中止について *文芸（たちばな会）
1 2月号	<ul style="list-style-type: none"> *わくわく読読のいち図書館 *野市図書館イベント情報（エンジョイクリスマス） *としょかんナビ *公民館教室のお知らせ （フラワーアレンジメント、米袋バッグ） *宝くじの助成金で獅子頭・天狗面等を購入 *文芸（花野句会）
1月号	<ul style="list-style-type: none"> *香我美中学校駅伝部、大躍進 （第71回高新中学駅伝競走大会） *入学通知書のお知らせ *就学援助費のお知らせ *国の教育ローンのお知らせ *重要文化財安岡家住宅一般公開のお知らせ *香南市指定文化財（史跡）鬼が岩屋洞穴 *野市図書館イベント情報（しおり総選挙） *図書館・室に図書除菌機を設置 *絵本贈呈式 *としょかんナビ *公民館教室のお知らせ （新聞バッグ、免疫力を上げる漢方養生法） *令和3年香南市成人式の延期について *第15回香南市美術展覧会の開催について *イベント中止のお知らせ（三世代交新正凧揚げ大会、旧正凧揚げ大会、駅伝大会、香南市長杯オープンゴルフ大会） *文芸（やす短歌にしたしむ会）
2月号	<ul style="list-style-type: none"> *第11回香南市長杯ミックスダブルステニス大会のお知らせ *百手祭を開催 *香我美図書館イベント情報 （没後200周年記念 無人島長平展） *としょかんナビ *公民館教室のお知らせ （ヨーガセラピー、ファブリックパネル） *文芸（百人一首・俳句・短歌の会）

3月号	<ul style="list-style-type: none"> * スポーツ安全保険のお知らせ * 野市図書館イベント情報（バリアフリー） * としょかんナビ * 重要文化財安岡家住宅一般公開のお知らせ * 木造薬師如来坐像（福万薬師堂）修復 * 文化財防火デー（消火訓練） * 第20回岡本彌太文学賞の表彰 * 公民館教室のお知らせ（消しゴムはんこ、風呂敷レッスン） * 香南っ子映像倶楽部第4期生メンバー募集 * なんこく若者サポートステーション出張相談会の開催 * 文芸（吉川町短歌をたのしむ会）
-----	---

【評価】

教育委員会の開催にあたっては、議案・資料を遅くとも会議3日前までに配布して内容の事前確認を行うとともに、余裕のある会議時間を設定することにより、積極的な意見交換が図られ充実した審議が行われた。

教育委員の研修については、新型コロナウイルス感染症の影響により、計画されていた研修がすべて中止となった。今後は、オンライン研修に参加するなど研修機会の確保に取り組む必要がある。

教育委員会の活動や取組について、広報誌やホームページに掲載しているが、行事やイベント等の情報が多くなっており、その他の活動や取組についてより積極的に情報発信を行っていく必要がある。

2. 教育委員会が管理・執行する事務

[目標]

議案を研究・精査し、適切な処理に努める。

(1) 香南市教育行政の基本方針を定めること

香南市教育振興基本計画後期計画に基づき「令和2年度教育行政方針」を定めた。

教育行政方針について、教職員総会で周知徹底を図る予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったため、資料の配布により周知を行った。

(2) 学校その他の教育機関の設置、廃止及び変更に関すること

香南市教育委員会事務局、香南市教育研究所及び香南市補導センターが、令和2年12月28日に香南市役所新庁舎へ移転となった。

(3) 教科用図書の採択及び教材使用に関すること

令和3年度に使用する公立中学校教科用図書を採択した。

(4) 教育委員及び事務局職員の任免その他の人事に関すること

教育委員会の意向を反映した人事配置がなされた。

* 香南市教育委員会の所管に属する機関の会計年度任用職員の任用について

(令和2年第8回教育委員会定例会)

* 令和2年7月1日付け香南市教育委員会事務局職員の人事異動について

(令和2年第10回教育委員会臨時会)

* 令和2年9月1日付け香南市立保育所・幼稚園職員の人事異動について

(令和2年第12回教育委員会定例会)

* 香南市立保育所・幼稚園職員人事異動方針について

(令和3年第3回教育委員会定例会)

* 令和3年4月1日付け香南市教育委員会事務局職員等の人事異動について

(令和3年第4回教育委員会臨時会)

(5) 香南市立学校教職員の異動方針・異動に関すること

高知県教育委員会及び香南市教育委員会の異動方針に基づき配置がなされた。

* 教職員の人事異動の内申について

(令和3年第3回教育委員会定例会)

(6) 教育委員会の附属機関等の委員の委嘱に関すること

担当課からの推薦等に基づき、教育委員会で審議し委嘱がなされた。

* 香南市保育所苦情等解決に伴う第三者委員の委嘱について

(令和2年第7回教育委員会定例会)

* 香南市文化財保護審議会委員の委嘱について

(令和2年第7回教育委員会定例会)

- * 香南市中央公民館運営委員会委員の委嘱について
(令和2年第8回教育委員会定例会)
- * 香南市中央公民館運営協力員の委嘱について
(令和2年第8回教育委員会定例会)
- * 香南市補導センター運営委員会委員の委嘱について
(令和2年第8回教育委員会定例会)
- * 香南市立保育所における保育所評議員の委嘱について
(令和2年第8回教育委員会定例会)
- * 香南市立幼稚園における学校評議員の委嘱について
(令和2年第8回教育委員会定例会)
- * 香南市立小中学校における学校評議員の委嘱について
(令和2年第8回教育委員会定例会)
- * 香南市社会教育委員の委嘱について
(令和2年第9回教育委員会定例会)
- * 香南市生涯学習施設運営審議会委員の委嘱について
(令和2年第9回教育委員会定例会)
- * 香南市スポーツ推進委員の委嘱について
(令和2年第9回教育委員会定例会)
- * 香南市図書館協議会委員の委嘱について
(令和2年第9回教育委員会定例会)
- * 香南市教育振興基本計画推進協議会委員の委嘱について
(令和2年第9回教育委員会定例会)
- * 香南市立小中学校における学校運営協議会委員の委嘱について
(令和2年第9回教育委員会定例会)
- * 香南市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について
(令和2年第9回教育委員会定例会)
- * 香南市スポーツ推進審議会委員の委嘱について
(令和2年第11回教育委員会定例会)
- * 香南市いじめ問題専門委員会委員の委嘱について
(令和2年第14回教育委員会臨時会)
- * 香南市外国語指導助手業務委託業者選定委員会委員の任命について
(令和2年第16回教育委員会定例会)
- * 香南市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について
(令和2年第17回教育委員会定例会)
- * 香南市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について
(令和2年第18回教育委員会定例会)
- * 香南市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について
(令和3年第2回教育委員会定例会)

- (7) 教育予算その他、議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること
令和2年度は、事務局提案以外で市長への意見具申はなかった。
- (8) 児童生徒の就学すべき学校の校区を設定し、又はこれを変更すること
令和2年度は、当該案件はなかった。
- (9) 教育委員会規則等の制定又は改廃に関すること
- ①規則
香南市教育委員会行政組織及び事務局処務規則の一部を改正する規則について
外25件
- ②告示・訓令
香南市学校用務員設置要綱を制定する告示について 外43件
- (10) 議会の議決を経るべき議案の原案決定に関すること
香南市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について 外9件

【評価】

教育委員会が管理・執行する事務について、関係する法律等の規定に基づき適正な事務が行われている。

3. 管理・執行を教育長に委任する事務

(1) 生きる力を育む就学前・学校教育の推進

1) 保幼小中連携（一貫）教育の推進

重点取組事項

①保幼小中連携（一貫）教育の推進

①保幼小中連携（一貫）教育の推進

【取組の概要】

- ◇「香南市保幼小中連携カリキュラム」及び「香南市保幼小中連携（一貫）プログラム」に基づく保幼小中連携（一貫）教育を推進し、子どもたちが保育所・幼稚園から小学校へ、小学校から中学校への接続を円滑にするとともに、「コミュニケーション能力」「規範意識」「自尊感情」を高めるよう努めた。
- ◇香南市保幼小中連携子育て・教育推進事業（9の事業）のねらいに沿った取組を計画的に進めた。
- ◇香南市保幼小中連携子育て・教育推進事業の進行管理・指導、成果・課題等を協議し、子育て・親育ちの推進を図った。
- ◇子どもたちの基本的な生活習慣や自己肯定感等、人としての素養を育成するとともに、併せて親として望ましい子育てを支援した。
- ◇中学校区連携推進研究事業として、各中学校区の教育課題解決に向けて、外部専門講師を招聘するなどして、保幼小中が連携しながら実践的研究を推進した。
- ◇小学校5、6年生への専科制や小・中学校間の授業相互乗り入れを実施し、小・中学校を通じた連続性のある教育を行い、学力向上や生徒指導上の諸課題の解消に努めた。
- ◇香南市教育研究所を中心に、学校と連携した効果的な授業研究や校内研修を推進するとともに、教職員を対象に保幼小中・家庭・地域連携（一貫）教育に関するアンケート調査を実施した。

【成果】

- ◇中学校区連携部会では、新型コロナウイルスの影響を受け、例年通りの取組は実施できなかったが、どの中学校区でもできる範囲での取組を実施できた。また、直接対面による合同研修、合同授業研の実施は困難となったが、その分ICT機器を活用した研修会等を行うなど、新たな実施方法での取組が進展し、資質向上が図られた。
- ◇令和2年度の道徳意識調査において、「学校の規則を守っている」の項目では、小学校及び中学校ともに93～95%台で推移しており、規範意識についても、中学校区の保幼小中が連携し、継続して取り組んできた成果が表れている。

【課題・方針】

- ◇市内全小学校6年生を対象としたアンケート結果より、「中学校に入学することで楽しみにしていることがありますか」の質問項目において「ある」と答えた児童が昨年度と比較して微増した。また、「中学校入学にあたり、心配なことはありますか」との質問項目において「ない」と答えた児童については微減した。心配のある内容として、「友達」が昨

年度と比較して、若干増加している。今後も引き続き、児童生徒間の交流を含め、中学校との連携の充実を図る。

◇香南市保幼小中連携カリキュラムに沿った0歳から15歳までの系統的な育ちや学びに取り組み、香南市が目指す子どもの育成を目指す。

◇中学校区ごとで共通した取組を継続的に行い、連携の質的向上を図る。

◇令和2年度の道徳意識調査において、「自分には、よいところがあると思う」の項目では、小学校で、昨年度に比べやや下降した。中学校は年度当初78.6%と3年ぶりに75%を超える数値だったが年度末は下降する結果となった。今後もボイスシャワーや互いのよさを認め合う取組など、各校がこれまで行ってきたことを今一度、価値づけや意味づけし、子どもを勇気づけるような働きかけを継続していく必要がある。

【評価】

新型コロナウイルス感染症予防対策を第一に考え、保幼小中の交流行事については、例年通りの実施は難しかった。実際に訪問して交流する代わりに、中学生の手作りおもちゃのプレゼントや手紙のやりとりなど、従来とは違った形の交流ができた。

直接対面形式による連携に制限が生じたが、可能な範囲での連携の取組を推進するため、ICT機器を活用したオンライン形式による取組が拡充した。そのことに伴うICT機器活用の機会、技術が向上した。

2) 家庭や地域と連携した教育の推進（チーム学校の取組）

重点取組事項

- ①厳しい環境にある子どもたちへの支援
- ②学校の組織マネジメント力の強化
- ③不登校の改善
- ④子どもが育ちやすい地域コミュニティの再構築
- ⑤家庭の教育力の向上
- ⑥放課後の子どもの生活・学習支援の充実

①厳しい環境にある子どもたちへの支援

【取組の概要】

◇チャレンジ塾等の学習機会を充実し、子どもの育ちを促し、学力向上につながる取組の充実を図った。

◇経済的に厳しい児童生徒の給食費や学用品費などの費用を援助した。

◇保護者を対象とした子育て講演会を実施し、家庭教育力の向上を図った。

◇保育所・幼稚園で実施される保護者会に、市教育委員会が出向き、「香南市の教育について」の説明を行うなど共通理解を得ながら、家庭と連携した子育ての充実を図ることを計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。

【成果】

- ◇チャレンジ塾は2箇所の開設であったが、学習機会を設けることにより、学習内容だけでなく学習習慣定着へのきっかけづくりや進路への意欲づけにつなげることができた。
- ◇スクールソーシャルワーカーの活用などにより児童生徒と学校、家庭間の情報共有や連携をすすめることができ、児童生徒への支援につなげることができた。
- ◇就学援助制度などについて学校との連携や協力により、制度の周知徹底や該当もれを防ぐための取組が推進できた。
- ◇保育所・幼稚園ごとに企画した講演会と香南市全体の就学前の子どもを持つ保護者を対象とした講演会を実施し、家庭教育力の向上が図れた。

【課題・方針】

- ◇就学援助制度について、ホームページや学校を通じて保護者に周知を図り、支援が必要な家庭に援助が行き届くように取組を進める。
- ◇チャレンジ塾は、今後も継続して開設していく。今後、受講の希望者が増える状況となれば教室数を増やしていく。

②学校の組織マネジメント力の強化

【取組の概要】

- ◇学校経営計画をもとに、取組状況や成果を点検・検証し外部の専門家や地域の人材の力を活用しながら取組を推進した。
- ◇所属長会・副所属長会などにおいて、必要に応じマネジメントに関する研修を実施し、資質の向上に努めた。
- ◇個々の教員の授業力向上を図るとともに、全教職員が教科の壁、学級や学年の壁を越えて相互に協議し、組織的な授業改善や生徒指導につなげた。
- ◇研究主任や情報教育担当者など、各教職員が個々の役割を十分に理解し、力を発揮する学校づくり推進のため、各担当者会を実施した。
- ◇「チーム学校」を構築するためのチェックシートを活用し、チーム力に関する取組を評価し、今後へつなげるPDCAサイクルの取組の充実を図った。

【成果】

- ◇組織マネジメントの考え方や研修内容が、各学校で定着している。
- ◇学校経営計画に沿って運営が行われ、PDCAサイクルを活用した計画・点検・検証・改善の流れが教職員の間で定着してきた。
- ◇校務分掌に沿った実践が行われ、担当教員が与えられた役割を果たすシステムが定着している。
- ◇学校が抱える課題に対して、教職員個々の力量に頼るのではなくチーム学校として対応する姿が見られ、さまざまな場面で組織的に課題解決へとつながっている。

【課題・方針】

- ◇教員数の多少も伴って、学校によっては、運営面で教員の個々の力量に頼る部分が残されている。チーム学校の考え方や取組を浸透させ、PDCAサイクルを回しながら今後も改善に努めることで、組織マネジメント力の強化を目指していく。
- ◇各種学力調査を基に、学校全体が組織として取り組むことで、安定した成果につなげていく。

③不登校の改善

【取組の概要】

- ◇スクールソーシャルワーカーを配置し、保育所・幼稚園・学校と教育支援センター「森田村塾」、医療や福祉等の関係機関と連携を図り、子どもや保護者に対する支援の充実を図った。
- ◇さまざまな要因で悩みを抱える子どもや保護者、教職員への教育相談（こども相談室・ほのぼの相談）や校内支援会の実施、スクールカウンセラー等の配置など、支援体制の充実を図った。
- ◇教育支援センター「森田村塾」において、不登校等の子どもの居場所づくりを充実するとともに、学校との連携を密にし、学校生活への復帰を支援した。
- ◇子どもたちが、安心して学校生活をおくることができるように、各学校が、児童生徒理解を深め、温かい学級づくりに取り組めるようQ-Uアンケートやいじめ調査等を実施し、その活用を促進した。
- ◇森田村塾にアウトリーチ型スクールカウンセラーを配置し、各家庭等への訪問支援を行い、きめ細やかな対応を行った。

【成果】

- ◇国の指定である「魅力ある学校づくり調査研究事業」を受け、市内各校で担当者を中心に不登校児童生徒を発生させない学校・学級づくりに向けて取組を進めることができた。また、不登校児童生徒に対しては、学校やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育支援センター、関係機関が互いに連携し合い、改善に向けて継続的に取り組むことができた。
- ◇スクールソーシャルワーカーの連絡会を定期的で開催し、事例対応などへの検討を行ったり、スキルアップにつなげるため相互アドバイスなどを行ったりすることにより、児童生徒や家庭への支援の充実につながった。
- ◇教育相談などの支援制度をフル活用でき、学校が課題としていることなどに対して支援ができた。

【課題・方針】

- ◇魅力ある学校づくり調査研究事業の基本的な考え方を、全ての学校が取入れ継承していくことで不登校の未然防止に努め、その結果不登校児童生徒数の減少につなげていく。
- ◇教育支援センター（森田村塾）のより有効的な運営について協議し、スクールソーシャルワーカーとも連携して不登校児童生徒への支援を充実させる。

④子どもが育ちやすい地域コミュニティの再構築

【取組の概要】

- ◇積極的な情報発信や学校評価の実施により、地域に根ざした特色ある学校づくりに努めた。
- ◇すべての小・中学校で地域学校協働本部事業に取り組んだ。
(本部9箇所：夜須中学校区、赤岡小学校、吉川小学校、野市東小学校・野市小学校・佐古小学校・赤岡中学校・香我美中学校区・野市中学校)

- ◇コミュニティ・スクール実施（赤岡小・赤岡中・野市小）
- ◇こうなんファミリーサポートセンター事業により、安心して子育てができるような住民同士の相互援助活動の取組を進めた。
- ◇子育て情報を得る手段としてインターネットの活用が高まっており、市の子育て情報サイト「香南キッズ」の周知を進めた。

【成果】

- ◇地域学校協働本部事業により、香南市全域で地域と連携した教育を推進することができた。また、地域学校協働本部の中でも、学校と地域が定期的な協議の場を確保したり、民生委員・児童委員の参画による子どもたちの見守り体制を有した高知県版地域学校協働本部へ新たに3本部が移行し、9本部のうち7本部となった。
- ◇仕事と育児の両立を支援し、安心して子育てができる環境づくりを充実させるため、こうなんファミリーサポートセンター事業を実施して、子育てを住民同士が協力・支援する取組を進めることができた。
- ◇妊娠が分かった時から就学期までの、助成制度や子育て支援制度、子育ての悩み事や困った時の相談先、子育て関連情報をインターネット上のサイトで見やすくまとめて掲載した。

【課題・方針】

- ◇令和3年度にはすべての小・中学校が学校運営協議会制度を取り入れたコミュニティ・スクールとなるため、運営協議会と地域学校協働本部の連携を更に進め、厳しい環境に置かれている子どもたちを見守ることのできる体制の構築を進める。
- ◇こうなんファミリーサポートセンター事業の実施にあたっては、ボランティアである「まかせて会員」のなり手が不足しているが、社会福祉協議会と協働して、保護者や会員へのアンケート調査の実施や他市の状況を参考に会員増加につながる取組を進める。
- ◇スマートフォンアプリ「LINE」を活用した市のHPと連動した情報発信ツールの普及と合わせてサイトの周知を図っていく。

⑤家庭の教育力の向上

【取組の概要】

- ◇子育て講座などを開催し、家庭の教育力向上を図るとともに、子育て支援センターの充実やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーなどの活動を通して、さまざまな不安や悩みを持つ保護者に対する子育て相談や援助などを行った。
- ◇子どもたちの基本的な生活習慣を身に付けさせ、自尊感情等を育成するため、親として望ましい子育てについて啓発を行うとともに、絵本の読み聞かせ等を通じた親子のふれあいを支援した。

【成果】

- ◇スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの協力を得ながら、保護者に対する支援が充実してきている。

【課題・方針】

◇家庭の教育力の向上を目指し、子育て相談や講演会の開催など保護者支援を充実させていく。

⑥放課後の子どもの生活・学習支援の充実

【取組の概要】

- ◇地域学校協働本部事業等により支援員を配置し、小・中学校で放課後学習に取り組んだ。
- ◇子どもたちの健やかな育ちと豊かな学びを支援するため、放課後児童クラブ、放課後子ども教室の支援員等の研修機会を確保し、資質向上を図った。
 - *放課後児童支援員認定資格研修（7名）
 - *放課後児童支援員研修（7回、延べ48名）
- ◇生活学習支援員を配置し、放課後学習を行うことにより基礎学力の定着を図った。
- ◇野市小学校及び香我美小学校の放課後児童クラブで発生している待機児童の解消を図るため、新たな施設整備を行った。

【成果】

- ◇年間を通して学習支援者を配置し、継続的に学習をサポートすることで、放課後の学習習慣が定着してきた。
- ◇研修に参加することで、職務を遂行するうえで必要な知識及び技能の習得と、その実践の基本的な考え方や心得を学ぶことができた。
- ◇待機児童の生じていた野市小学校及び香我美小学校の放課後児童クラブの新設工事を行ったことで、令和3年度に向けての施設環境を整えることができた。

【課題・方針】

- ◇子どもの居場所を確保する上で、放課後児童クラブや放課後子ども教室の果たす役割は大きい。子どもの生活や学習支援の充実を図る上でも、支援員への研修の機会を確保し支援の質的向上を目指していく。
- ◇放課後児童クラブ支援員の研修機会の確保、参加により、さらなる資質向上及びスキルアップを図る。
- ◇児童クラブの安定した運営のため、放課後児童支援員の人員確保を進めていく。

【評価】

新型コロナウイルスの影響により、実施できなかった取組みは多いが、工夫によりできる限りの取組みを進めた。また、直接対面への規制があった分、ICT機器を活用した実施方法での取組が進展し、資質向上が図られた。

組織マネジメントの考え方や研修内容が定着してきている。これにより、学校が抱える課題に学校全体として対応し、組織的な課題解決へとつながっている。また、不登校児童生徒に対しては、学校、SC、SSW、教育支援センター、関係機関が互いに連携し合い、改善に向けて継続的に取り組むことができた。

今後は、中学校区ごとで共通した取組を継続的に行い、連携の質的向上を図る。また、魅力ある学校づくり調査研究事業の基本的な考え方を、全ての学校が取入れ継承していくことが求められる。併せて、運営協議会と地域学校協働本部の連携を更に進め、厳しい環境に置かれている子どもたちを見守ることのできる体制の構築を進める。

3) これからの社会を生き抜く力を育む教育の推進

重点取組事項

- ①就学前教育の充実
- ②確かな学力の育成
- ③豊かな心の育成
- ④キャリア教育の推進
- ⑤人権教育の推進
- ⑥健やかな体の育成と健康の増進
- ⑦特別支援教育の推進

①就学前教育の充実

【取組の概要】

◇日常的な保育所・幼稚園経営に係る諸問題について研修を深め、その望ましい解決策等を探り、管理職としての経営能力の向上を図った。

＊副所属長研修（1回、11名）

＊所属長及び副所属長合同研修は新型コロナウイルス感染症の影響により中止

◇保育及び幼稚園教育の中核を担う保育者に対して研修を実施し、保育所及び幼稚園の質的向上及び次期管理職の育成を図った。

＊中堅保育士研修（1回、16名）、園内研修会（51回、475人）、

研究主任会（3回、39人）、特別支援保育・教育研修会（1回、27人）

◇総合子育て支援センター「にこなん」に保護者支援相談員を配置し、さまざまな悩みや課題を持つ保護者に対する子育て相談・指導などを行い、子育て支援に努めた。

◇市内7保育所、4幼稚園、「にこなん」を会場に、就学前の子どもを持つ保護者を対象に講演会や親子ふれあい遊びなど情報や知識だけでなく親子で楽しく遊んだりリフレッシュできるプログラムを企画し実施した。

＊安心子育て応援事業（保幼合計14回、284名）

◇県指定のブロック別研修会を香我美幼稚園で7回、フォローアップ研修を東幼稚園で2回行い、年間を通した研修により職員の資質向上に努めた。

【成果】

◇年間を通した研修保育や様々な研修会を通して、保育者の資質、専門性の向上と保育の充実につながった。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により合同研修は中止となったが、各保育所、幼稚園で実践につながる研修を主体的に計画し実践することができた。

◇県指定のブロック別研修及び次年度のフォローアップ研修を行い、香南ブロックにおける主体的な実践研修のためのネットワーク化の推進とミドルリーダーの育成に努めた。また、園の組織力アップを図り保育者の資質向上と保育の充実につながった。

【課題・方針】

◇今後も年間を通して計画的に研修を実施し、保育者の資質向上と保育の充実を図る。

②確かな学力の育成

【取組の概要】

◇子どもたちが学習の意義や大切さに気づき、自ら進んで取り組み、考え行動できる学習活

- 動を推進するため「できる・わかる・楽しい授業」の取組を全校で行った。
- ◇到達度把握調査（標準学力調査）を小学校2年生から中学校3年生まで実施し、結果分析をするとともに、分析に基づく授業改善に努めるよう通知した。
 - ◇各小・中学校の実態に応じて非常勤講師を配置し、専科の教員による専門性の高い授業を行った。（非常勤講師3名）
 - ◇すべての学校に生活学習支援員を配置し、通常学級で支援が必要な児童生徒への学習支援を行い学びの保障に努めた。（生活学習支援員11名）
 - ◇野市小学校・香我美小学校・赤岡中学校の「『高知の授業の未来を創る』推進プロジェクト事業における授業づくり講座」、野市小学校・野市中学校の「メンター制を活用した人材育成実践研究事業」、赤岡小学校の「高知県安全教育推進事業」、香我美中学校の「高知県人権教育研究推進事業」、野市小学校の「夢・志を育む学級運営のための実践研究事業」、野市中学校の「不登校担当教員配置校サポート事業」、吉川小学校の「オリンピック・パラリンピック教育推進事業」、香我美中学校・赤岡中学校・野市中学校の「未来を創る 中学校授業づくり推進ティーチャー育成事業」、香我美中学校・野市中学校の「中学校組織力向上のための実践研究事業」、野市小学校・野市中学校の「スクールサポートスタッフ配置事業」、野市小学校の「小学校英語専科指導指定校事業」、佐古小学校の「英語教育拠点校事業」、夜須中学校の「道徳教育推進拠点校事業」に取り組んだ。
 - ◇年間3回実施した外国語教育担当者会を活用し、英語教育拠点校事業を推進している佐古小学校の取組を広く紹介するなどして、新学習指導要領実施の準備を進めるとともに、小・小連携・小中連携による小・中学校の英語教育の充実を図った。
 - ◇外国語指導助手（ALT）を活用することにより、それぞれの発達段階に応じた外国語指導の充実と異文化理解を促進した。
 - ◇中学校3年生を対象にチャレンジ塾を実施した。
 - ◇教育課題のある学校に対して生活学習支援員を配置し、学力問題や生徒指導上の諸問題の解消に努めた。

【成果】

- ◇令和2年度全国学力・学習状況調査は、新型コロナウイルス感染症に伴い中止となったため、全国値との比較はできなかった。
- ◇新型コロナウイルス感染症対策を講じた環境の中での授業が展開され、これまで以上にICT機器を有効に活用した授業実践が進んだ。新学習指導要領の実施に伴い、小学校ではプログラミング教育の充実に向け、ICT支援員との共同授業が展開されるとともに、校内研修を通じて、共通理解が進んだ。
- ◇新型コロナウイルスの影響を受けたが、できうる範囲で中学校区連携推進研究事業や各種学力調査の結果分析を活かして、15歳の出口を見据えた学力の定着に向けて、どのような力を付けるのか共通認識することができた。

【課題・方針】

- ◇標準学力調査、高知県学力定着状況調査結果の状況を踏まえ、各学校内だけではなく、中学校区も連携して、一層の学力向上に努めていく。
- ◇基礎基本の学力の定着はもちろんのこと、新学習指導要領における新しい学力観に沿って、確かな学力が子ども達に身に付くよう取り組んでいく。
- ◇外国語教育やプログラミング教育など新たな教育が学校現場に迅速に定着するよう、支援

を行ったり研修の機会を設けたりしていく。

◇GIGAスクール構想に伴う一人一台端末の整備によって、児童生徒の主体的な学習への転換を図り、学力向上につながるよう効果的な使用場面や方法の共有を図る。

◇国や県の指定事業を積極的に活用し、香南市の教育の向上を目指していく。

③豊かな心の育成

【取組の概要】

◇各校の道徳教育推進教師による道徳教育担当者会を年間3回開催し新学習指導要領で教科化された「特別の教科 道徳」趣旨理解と評価方法などについて研修を行った。

◇道徳意識調査及びチェックシートを実施し、自尊感情や生活習慣、人間関係や規範意識、それぞれの高まり具合を継続的に調べ取り組みの指標とした。

◇学校図書館支援員を小・中学校に配置し、読み聞かせ、読書環境の整備、貸し出し業務などを行い、子どもたちが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力と創造力を豊かなものにする読書活動を推進した。

◇社会科副読本「香南のくらし」を活用して地域のくらしや歴史、文化について知識や経験を深める教育を推進した。

【成果】

◇継続的に市ぐるみで授業改善の取り組みを進めたことにより、道徳の時間への意識が高まり、教師自身の苦手意識が軽減された。また、継続して講師招聘や校種間の連携をとることで、発達段階に応じた発問の設定や資料解釈ができ、めざす道徳の授業について研修を深めることができた。

◇社会科副読本「香南のくらし」の第4版改訂に向け、小学校教諭が編集委員となり、作業や担当者会を通して単元や授業の構想について深めることができた。子どもたちにとって興味関心が高まり、思考力が深めることができる副読本になるよう協議を深めることができた。

【課題・方針】

◇わがまちの道徳教育推進事業の流れを継続し、各学校における道徳の授業改善に努める。

◇社会科副読本「香南のくらし」の改訂版作成にあたっては、中心となって作業を進める人員を配置し、子どもたちにとって興味関心が高まり、思考力が深めることができる副読本の作成を目指していく。

④キャリア教育の推進

【取組の概要】

◇子どもの発達段階に応じて、家庭教育、幼児教育、学校教育、生涯学習（社会教育）が連携して、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度を育成するとともに、将来の生き方を考え、自己実現が図れるように支援した。

◇キャリアパスポートを作成し、小・中学校9年間かけて、各学年で作成したキャリアシートがつながる取組を支援した。

◇地域のさまざまな人との交流をとおして体験的な職業理解、職場体験学習などを行うことで、仕事や社会人としての生き方について考え、将来に向けての自分らしい生き方に向かう態度を育てた。

◇地域の事業所などの協力を得て、中学生を中心として、職場体験学習を推進し、職業に関

する理解を深めるとともに、地域社会を支える仕事や産業についての理解を深めた。

【成果】

◇多くの学校で地域の人との連携や地域人材の活用をするなかで、児童生徒が地域の産業理解を深めたり、職業に関する知識を獲得し意識を高めたりすることを通して、自立意識の高揚につながられた。

【課題・方針】

◇今後も地域住民や地域企業からの支援や協力を得ながら、多様な体験活動や職場体験学習の充実を図っていく。

◇子ども達が就職する際に求められるであろう、「基本的な生活習慣の確立」「学力の定着」「社会性の育成」について、あらゆる教育活動において身につけることができるよう取り組んでいく。

◇令和3年度はこども議会を開催し、児童生徒が香南市のまちづくりなどについて考えることで、市政への参加や理解を深めるとともに、子どもの社会参画への態度や意欲を高める取組を進める。

⑤人権教育の推進

【取組の概要】

◇自尊感情を高め、互いを認め合い支え合う共感的な人間関係づくりや、人権に関わる課題の解決をめざした、一人ひとりを大切にす人権教育に取り組んだ。

◇各学校における人権教育全体計画、年間指導計画に基づき、11の課題について計画的、系統的に学習を展開するとともに、人権参観日等を実施し、保護者や家庭地域への普及・啓発を行った。

【成果】

◇各学校においては、児童生徒の実態に合わせ、計画、実践、評価、改善を繰り返し、人権意識が高まるような授業実践、教育活動が展開できた。

【課題・方針】

◇人権意識が高まり定着していくためにも、あらゆる教育活動を通して人権教育に取り組んでいく。

◇各学校で、いじめ問題など人権問題について全児童生徒で考える機会を設けていく。

◇児童生徒に身に付けさせたい力及び単元を通したゴールイメージをもった授業の展開を目指しているが、若年経験者教師の相対的な増加により、指導力のばらつきが見られた。

⑥健やかな体の育成と健康の増進

【取組の概要】

◇家庭や地域と連携して「早ね 早おき 朝ごはん」など基本的な生活習慣の定着を図るよう取り組んだ。

◇発達段階に応じた適切な性教育や保健安全指導を行い、健康づくりにおける自己管理能力の育成を図るよう取り組んだ。

◇望ましい食習慣の形成に向けた食指導や、市内全校で調理体験教室等を行い、食に関する

意識啓発や調理技能の向上を図るとともに、地元食材を使った料理教室の実施などに取り組む予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、感染対策をしたうえでできる限り実施できるよう努めた。香南市食育推進計画に則り、食についての指導の充実に努めた。

- ◇保護者に献立表や給食だよりの配布及び給食試食会を実施（野市小1校のみ）し、望ましい給食への理解を得るよう努めた。
- ◇栄養教諭等による、食物の働きや栄養指導及び正しい食事のマナーの指導など食育の推進に努めた。
- ◇小学校5年生対象の朝食づくり教室、中学校1年生対象の弁当づくり教室は感染対策をしたうえで実施した。
- ◇旬の食材等、生産者の心のこもった安心・安全な地場産品を積極的に取り入れ、バランスのとれた献立実施した。
- ◇保幼小中食育推進検討委員会では、各年齢に応じた食の取組が行われていることを情報共有し、成果を他の所属に広めることや共通の課題に対して積極的な討論がされ、新しい取組みとして「食育だより」の作成・配布を行った。

【成果】

- ◇朝食づくり教室及び弁当づくり教室の取組も定着してきた。また、学校独自で食育に関する取組を実施する所属所が増えた。
- ◇乳幼児期は保護者の影響を受けやすい時期なので、参観日や給食だより等を利用して、保護者への啓発を実施した。（給食試食会は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。）

【課題・方針】

- ◇令和3年度全国体力・運動能力調査結果を踏まえ、課題の見られた内容については、各学校と状況を共有し、改善に向けた取組を実施していく。
- ◇望ましい食習慣の確立や健康な体づくりを目指し、家庭や地域からの支援も受けながら食育を推進していく。
- ◇体育の授業での運動量を増やすなど、授業内容の見直しを行うとともに、授業前、授業間等の運動機会の確保、年間通じた取組の継続等、児童生徒の運動習慣の確立にも取り組む。
- ◇香南市食育推進会議と一層の連携が図れるよう情報共有していく。
- ◇料理の機会や経験が少ない親が増えているため、そこに対しての意識付けが課題であり、今後も、保育・幼稚園等と連携した食育事業、健康対策課によるパパママ教室や乳幼児健診での指導、総合子育て支援センターでの栄養相談を継続し、朝食摂取について更なる啓発を行っていく。

⑦特別支援教育の推進

【取組の概要】

- ◇障害のある子どもたちに適切な指導が行えるよう、教育環境を整備し、特別支援教育支援員の配置や教職員研修を充実するなど支援体制を整えた。（研修会：1回）
- ◇関係機関と連携して適切な就学指導を進め、障害の種別と特性に応じた教育課程の編成を行い、一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育を進めた。
- ◇効果的な通級指導のあり方を研究し、ADHD（注意欠陥／多動性障害）やLD（学習障

害) などの子どもたちの特性に対応した教育を推進した。

- ◇特別支援学校や専門機関との連携を進め、特別支援教育支援員を有効に活用しながら、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばすことのできる取組を進めた。
- ◇就学前から特別な支援を必要とする子どもへの適切な指導援助を行うため、専門コーディネーターを配置し、教職員の資質向上に取り組むとともに、効果的に子どもの成長発達を支援することに努めた。
- ◇特別な支援を必要とする子どもに対する早期対応への取り組みとして「いきいき香南っこ相談事業」(就学前～小学校低学年対象)を実施した。就学への引継ぎも考え、年長組対象の相談には香南市特別支援教育アドバイザーやSSWも出席している。

(相談36回、フォローアップ55回)

【成果】

- ◇香南市特別支援教育アドバイザーによる各学校の巡回訪問では、特別支援教育の視点を踏まえた学校経営、学級経営の推進・充実に向け、指導・助言を行うことで、学校の支援体制の構築、充実を図ることができた。
- ◇教職員研修では、事例を基に具体的な話を講師の先生にして頂き、参加者は子どもへの関わり方やユニバーサルデザインの視点に基づく授業づくりについて学ぶことができ、日々の指導に生かすことができている。
- ◇いきいき香南っこ相談事業では保育者や教職員の資質向上が図られ、保護者対応も含め個別の指導計画・環境調整など、計画的な特別支援保育・教育の取組となっている。
- ◇研修会では発達の特性とその理解に基づいた個別の指導計画の作成について学び合った。演習では実際に作成したものを交換し合うことを通して他の捉えや支援を知り、実践的な学びとなっている。
- ◇ティーチャーズトレーニングでは受講対象所・園を決めて実施し、子どもの行動の理解とその支援について共に学び特別支援保育・教育について同じ方向性を持つことで、園内の体制の強化や教職員の資質向上となっている。また、受講後3年間はこの学びの実践とケーススタディによるフォローアップを行い受講者のスキルアップとなっている。

【課題・方針】

- ◇支援が必要な児童生徒への十分な支援が行えるよう、特別支援教育支援員の適切な配置をしていく。
- ◇教室環境を整えることで周囲からの刺激を和らげ、学習に集中できる教室づくりを心掛けていく。
- ◇専門機関との連携を密にすることで、指導方法や支援体制の充実を図る。
- ◇いきいき香南っこ相談事業は順次実施し、特別支援専門職員と連携して各所園の特別支援保育・教育の支援を行っていく。
- ◇市健康対策課との連携による早期対応や、年長組相談への市教委学校教育課指導主事、SSWの参加により就学における引継・連携などを、継続して行い、子どもの理解や支援へつなげていく。

【評価】

各学校では、新型コロナウイルス感染症対策を講じた環境の中での授業が展開され、これまで以上にICT機器を有効に活用した授業実践が進んだ。新学習指導要領の実施に伴い、小学校ではプログラミング教育の充実に向け、ICT支援員との共同授業が展開されるとともに、校内研修を通じて、共通理解が進んだ。確かな学力の育成に向け、基礎基本の学力の定着はもちろんのこと、新学習指導要領における新しい学力観に沿って、確かな学力が子ども達に身に付くよう取り組んでいくとともに、外国語教育やプログラミング教育など新たな教育が学校現場に迅速に定着するよう、支援を行ったり研修の機会を設けたりしていく。また、GIGAスクール構想に伴う一人一台端末の整備によって、児童生徒の主体的な学習への転換を図り、学力向上につながるよう効果的な使用場面・方法の共有を図る。

豊かな心の育成では、道徳の時間を中心に継続的に市ぐるみで授業改善の取り組みを進めたことにより、道徳の時間への意識が高まり、発達段階に応じた発問の設定や資料解釈ができ、自尊感情や規範意識を高める授業づくりを行うことができた。

人権教育の推進においては、各学校における人権教育全体計画、年間指導計画に基づき学習を展開するとともに、人権参観日等を実施し、保護者や家庭地域への普及・啓発を行えた。今後も人権意識を高め定着させていくため、あらゆる教育活動を通して人権教育に取り組んでいく必要がある。

4) きめ細かな教育の推進

重点取組事項

- ①教職員の専門性・指導力の向上
- ②保育所・学校運営の充実
- ③生徒指導の充実
- ④教育相談・支援体制の充実

①教職員の専門性・指導力の向上

【取組の概要】

- ◇保幼小中が連携して、共に取り組むべき課題等について、各主任会・担当者会を計画的に実施し、情報交換や指導・支援の在り方について、協議を通して共通理解を図った。
- ◇各小・中学校の学校経営計画、各学力調査分析、校内研修推進計画に基づく取組を指導・支援することで、授業研究を中心にした授業改善に取り組んだ。県指定事業の進捗管理を含め、中学校では、東部教育事務所と連携し授業改善プランを検証することでPDCAサイクルを意識した教育活動に取り組んだ。
- ◇市内保幼研究主任会の実施（3回、39人）

【成果】

- ◇異校種間で、目指す子ども像を共有したうえで、学力向上に向けての具体的な取組について協議し、中学校区で共通した取組について共通理解を図り実践につなげることができた。
- ◇中堅保育士として、自分の立場を自覚して自分の園を捉え直し取り組むことができるよう

になった。

【課題・方針】

- ◇教職員の専門性や指導力の向上を目指し、研修の機会を充実させていく。
- ◇新学習指導要領が示す学力観に沿って、日々の授業改善に取り組んでいく。

②保育所・学校運営の充実

【取組の概要】

- ◇所属長会・副所属長会等において定期的な協議や研修を実施し、管理職としての経営能力の向上を図った。
- ◇保育所評議員・学校評議員の配置や、学校アンケート等の実施により、保育経営・学校経営に地域・保護者・児童生徒の意見や評価を取り入れ、子どもたちがより良い保育・学校生活を送れるよう、保育・学校運営の改善と発展に努めた。
また、市の教育行政方針や評価の視点等を確認し、情報交換や協議を行うための香南市保育所評議員・学校評議員連絡会を開催する計画であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。
- ◇令和3年度にコミュニティ・スクールをすべての学校に導入するための準備に取り組んだ。

【成果】

- ◇コミュニティ・スクール導入に向け、コミュニティ・スクール推進事業研修会に校長が参加し、その必要性や具体的な事例を通じて学び、導入の準備に向けて取り組むことができた。また、既存の学校評議員の仕組みを学校運営協議会にスムーズに移行できるように規則等の整備を行うことができた。

【課題・方針】

- ◇学校経営計画に沿って、知徳体のバランスの取れた学校運営を推進していく。運営に当たっては、PDCAサイクルを回してチェック機能や改善策を入れながら、効果的な学校運営に心がけていく。
- ◇保育所・学校評価の結果を重視し、児童生徒・保護者・地域の方からの意見も参考にした学校運営を行う。
- ◇学校運営協議会と地域学校協働本部が一体になって推進できる体制を構築していく。

③生徒指導の充実

【取組の概要】

- ◇全小・中学校の全学年に対し、年2回のQ-Uアンケートを実施し、その分析結果から児童生徒理解を深め、温かい学級・学校づくりに努めた。
- ◇補導員連絡会で、生徒指導に係る情報交換や問題行動未然防止の取組についての研修等を実施した。
- ◇高知夢いっぱいプロジェクト推進事業「夢・志を育む学級運営のための実践研究事業」として、児童生徒の自己指導能力を育成するため、学校行事や児童会・生徒会活動を充実させ、児童生徒の自治活動等を活性化するとともに、学級での話し合い活動や主体的に活躍できる場を充実させる等、自尊感情、自己有用感を育む開発的な生徒指導の視点を位置付けた教育活動を組織的にすすめた。（野市小学校）

【成果】

◇校長会において、高知工科大学と高知大学の講師に来て頂き、Q-Uアンケートの結果に関する分析について講話頂き、自校の児童理解に活用することができた。

【課題・方針】

- ◇Q-Uアンケートは今後も実施し結果を分析することで、教員が気付きにくい児童生徒の思いや悩みをいち早く把握し、生徒指導の早期対応につなげていく。
- ◇「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的人間関係を育成する」といった生徒指導の3機能を教育活動の中に取り入れることで、自己指導能力を高め、児童生徒の主体的な活動へとつなげていく。

④教育相談・支援体制の充実

【取組の概要】

- ◇就学移行期にスマイルサポート支援ファイルを作成・活用し、関係者間の情報及び認識の共有化、保育所、幼稚園から小学校での教育支援の円滑な移行を図った。
- ◇子どもたちの大切な命を守ることを目的に、いじめや児童虐待に対応する校内体制の整備と見直しを図り、絶えず子どもたちのサインを見逃さない取組と情報の共有化を進め、関係機関との連携をとりながら対応を強化するよう取り組んだ。
- ◇各中学校区に1名ずつスクールソーシャルワーカーを配置し、子どもの居場所づくりを進め、全ての長期欠席児童生徒への支援をめざして、様々な態様を持つ不登校の子どもたちや保護者への支援や取組を行い、実態に応じたソーシャルワークができるよう学校との連携体制を構築すべく取り組んだ。
(本年度スクールソーシャルワーカー4名体制)
- ◇就学前保護者対象の「こども相談室」小・中学校保護者対象の「ほのぼの相談」を開設し、課題を抱える子どもと保護者の支援に取り組んだ。

【成果】

- ◇各校で実態に応じた特色のあるスクールカウンセラーの活用ができた。
- ◇スクールソーシャルワーカーを4名体制とし、配置校を主に中学校区別とすることで、きめ細かい支援体制が構築でき関係機関との連携や強化が図られた。
- ◇こども相談室：67件、ほのぼの相談：346件

【課題・方針】

- ◇スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置については、児童生徒・保護者・学校への支援を考え効果的な配置を継続していく。
- ◇専門機関との連携を密にしながら教育相談体制の充実を図っていく。
- ◇子どもたちや保護者の悩み・不安に対応するための教育相談活動を引き続き行い、不登校やいじめの教育課題に対して、関係機関と連携しながら適切な対応に努める。

【評価】

各中学校校区の保幼小中が連携して課題を洗い出し、その課題解決に向け協議し、15年間を見通した系統的な取組の推進ができています。平成25年度に作成した「香南市保幼小中連携カリキュラム（改訂）」を新学習指導要領全面実施に伴い見直し、0歳から15歳までの子どもの発達段階に応じた系統的な教育を進めるため、令和2年度版を策定した。今後も各中学校校区において保幼小中が緊密に連携しながら子どもの学びと育ちを連続させる取組の推進を図っていく。

子どもたちが安心して保育所や学校生活を送れることができるように子ども理解やアンケート調査等を分析するなどし、PDCAを回しながら授業改善や学習習慣、生活習慣の定着等に継続的な取り組みは進んでいる。今後は、保育所や幼稚園での幼児教育、全ての小・中学校での授業改善や指導を充実させるため、生徒指導の3機能を教育活動の中に意識して取り入れた実践を行い、子どもが主体的、積極的に取り組むことができるよう支援していく。

5) 安全な教育環境での教育の推進

重点取組事項

- ①防災教育等の推進
- ②保育所・幼稚園・学校の環境整備

①防災教育等の推進

【取組の概要】

- ◇各学校では、学校管理運営計画書の見直し時期や防災に関する取組に合わせ、学校防災マニュアル、危機管理マニュアルを見直すとともに、防災教育の推進に取り組んだ。
- ◇安全に対して必要な条件整備を図り、事故や災害が発生した場合に備えての危機管理体制を整えるとともに、日頃からの危機管理マニュアルの周知徹底を図り、事故や災害に強い施設や環境の整備に努めた。
- ◇家庭や地域及び関係機関との連携を密にし、児童生徒や保護者が安心して防犯に関する相談ができる体制を整備し、登下校時における犯罪被害の防止や不審者の校内侵入に対する安全確保の徹底に努めた。
- ◇保護者や地域を巻き込んだ地域住民参加型の防犯体制を整え、子どもたちに対する犯罪の未然防止に努めた。

【成果】

- ◇校区の通学路の状況について、児童が地域の方や関係者と共に調べ交通安全についての意識が高まった。

【課題・方針】

- ◇自分の命は自分で守ることができる児童生徒の育成を目指し、今後も年間3回以上の避難訓練の実施、年間5時間以上の防災学習の実施を徹底する。
- ◇防災教育を通して、子ども達の安全への意識や災害への備えを含めた実践的態度を高めていく。

◇災害発生時の避難行動や、発生後の避難生活について、学校だけではなく機会が合えば地域と連携した活動に拡充していく必要がある。

②保育所・幼稚園・学校の環境整備

【取組の概要】

◇教育施設等の耐震化を促進するとともに、ゆとりや潤いのある保育・教育の場として、計画的な改修・改築に努め、施設・設備の充実に努めた。

＊非構造部材の耐震化工事（野市小）

＊ブロック塀改修工事（野市幼稚園）

◇新たなニーズに対応する教育施設を計画的に整備することに努めた。

◇教育内容や指導方法の多様化に対応した教材・教具の整備充実に努めた。

◇教育施設の遊具等について、定期的な点検、補修等を実施し、安全確保に努めた。

◇新型コロナウイルス感染症対策として、保育所・幼稚園では網戸設置工事のほか、空気清浄機、サーキュレーター、パーテーション、非接触型体温計等を整備した。また、小・中学校では手洗い場の蛇口をプッシュ式水栓に交換した。

【成果】

◇非構造部材の耐震化等、計画的な環境整備を実施した。

◇施設環境を改善したことで、より一層の換気の徹底や接触機会の低減が図られ、感染防止が図れた。

【課題・方針】

◇校舎の老朽化が多く、多くの学校で見られ、大規模な改修が求められている。緊急性も加味しながら計画案を作成し、順次対応していく。

◇児童生徒の安全の確保を優先に考え、危険箇所等の修繕については迅速に対応していく。

◇今後も遊具の定期点検などを行い、必要な修繕を実施し安全確保に努める。

◇施設の環境整備とあわせ、今後とも集団生活における3密回避などの啓発及びその運用の徹底に努める。

【評価】

野市小学校の耐震化Ⅱ期工事が令和2年度で完了した。これにより、地震による落下物や転倒物から児童生徒を守るために推進してきた、非構造部材の耐震化工事が全ての小・中学校で完了した。

今後も適正な施設管理を行い、子ども達の安心安全を第一に考え、修繕や改修等を計画的に進めていく。

通学路の安全点検を行い、特に危険箇所については香南市通学路安全対策連絡協議会及び各関係機関が連携を図りながら合同点検を実施した。これにより危険箇所への対策を講じ、児童生徒の安全確保に努めた。

学校内の施設及び設備等における毎月1回の定期点検を継続的に実施し、遊具等の修繕を迅速に実施し、施設の安全確保に努めた。

新型コロナウイルス感染症対策として、施設の環境整備を可能な限り行ったことで、安全性の向上を図り、教育・保育活動を継続することができた。

(2) 生き生きと学ぶ生涯学習の推進

1) 生涯にわたり豊かな心を育む環境づくり

重点取組事項

- ①ライフステージに対応した学習の充実
- ②生きがいを得る学習機会の充実
- ③現代的課題に対応した学習機会の充実
- ④学習施設の整備
- ⑤地域に密着した学習の場の提供
- ⑥生涯学習推進組織の整備
- ⑦情報提供・相談機能の強化
- ⑧指導者の育成・人材活用
- ⑨生涯学習を通じての地域づくり
- ⑩全ての人と共生する生涯学習の推進

①ライフステージに対応した学習の充実

【取組の概要】

- ◇次世代を担う青少年の育成に資するため、各種事業で指導者育成の視点を持って実施した。
- ◇豊かな心を持ったたくましい子どもを育成するため、体験活動や地域間交流を推進した。また、三世代交流事業として、11月に親子サイクリング大会を開催した。しかしながら、新春凧揚げ大会は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。
- ◇青少年健全育成市民会議等の活動の支援を積極的に推進した。
- ◇香南市補導センターや関係機関との連携を密にした、健全育成活動の充実に努めた。

【成果】

- ◇平成27年度から新成人による成人式実行委員会を立ち上げ実施しているが、本年度の成人式は新型コロナウイルス感染症の影響により翌年度に延期となった。(最終的には中止となった。)
- ◇夏休み子ども教室は、3箇所で開催予定であったが本年度は中止とした。
- ◇各公民館で実施する予定であった夏休みの教室は、全教室中止となった。青少年育成会議の実施する本部事業、各支部事業とも今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から大半の事業が中止となった。

【課題・方針】

- ◇成人式実行委員会の委員は、従来の市広報での募集に加えて、対象者全員に実行委員募集の案内を送付し、当該年度の実行委員8名と多くの人数が参加し活発な意見交換がなされたが、次年度の成人式対象者の参加がなかった。

②生きがいを得る学習機会の充実

【取組の概要】

- ◇あらゆる機会を通じて市民の学習ニーズを把握し、多様な学習機会の提供に努めた。

ただし、多くの参加者が見込める、いきいきセミナーについては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から事業を中止とした。

◇学習情報の収集と提供により、いつでも、どこでも、だれでもが学習できる環境の実現に努めた。

【成果】

◇いきいきセミナーは4講座を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。

【課題・方針】

◇来年度は、令和元年度のアンケート結果を参考に内容を重視するとともに、より多くの市民が受講したいと思う著名な講師を選考するようにしたい。

③現代的課題に対応した学習機会の充実

【取組の概要】

◇女性団体や高齢者団体等の社会教育団体との連携を図り、ボランティア活動の推進や男女共同参画社会の実現に向けた取組の強化を図った。

◇生涯学習社会の実現をめざし、世代に応じた魅力的な講座・教室の開催に努めた。

◇人権学習や研修を通して、お互いの人権を尊重する意識の高揚に努めた。

◇家庭・地域や各種団体において人権を大切にする教育の啓発活動を充実するとともに、地域交流の促進に努めた。

◇同和問題をはじめ障害者や高齢者、外国人、H I V感染者等、インターネットによる人権侵害、性的指向・性自認、災害と人権、犯罪被害者等、その他の人権を守る教育を推進するため、学校や地域指導者と連携して、香南・香美子ども人権学習交流会を開催する計画であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止となった。

◇こどもの権利について認識を深め、未来を担う子どもを大切にする教育を推進した。

◇人権教育推進のために、香南市人権教育研究協議会をはじめ、人権擁護委員会等各種団体との緊密な連携に努めた。

【成果】

◇コロナ禍の中ではあったが、内容や定数の変更を行うなどにより、香南中央公民館の高齢者学級や中央生活学級など各公民館で趣味教養の各種教室を実施した。

◇人権教育研究大会は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止により中止となったが、保育所・幼稚園、小・中学校を中心にレポートを提出していただき報告資料を作成し、具体的な人権問題について考える機会を設けた。

◇いきいきセミナー、人権フェスティバル、部落差別をなくする運動など、他課との連携による人権講演は中止となったが、香南市職員人権教育啓発推進講座で行った「性の多様性」をテーマにした講演を香南ケーブルテレビで放映し、市民に学習の機会を提供することができた。

【課題・方針】

◇乳児期、幼児期に対しての趣味教養教室が実施できていないので検討していきたい。

◇香南市人権教育研究協議会と学校や人権擁護委員会等各種団体との人権教育や啓発事業に係る連携や調整がスムーズに実施できていないので関係者との検討会が必要である。

④学習施設の整備

【取組の概要】

- ◇図書購入費を総額630万円とし、野市図書館335万円、香我美図書館245万円、夜須図書室50万円を配分し購入した。
- ◇感染症対策として図書消毒機を購入し、図書館と図書室に設置した。

【成果】

- ◇図書館の入館者数は、感染症拡大により昨年に引き続き減少（68.9%）したが、貸出冊数については、ほぼ前年度を維持できた。（97.5%）
- ◇各施設は、適切な維持管理を行うことにより長寿命化を目指して管理されている。

【課題・方針】

- ◇読書バリアフリー法施行に伴い、誰にでも安心して利用できる施設、機能整備を行う。
- ◇静寂読書室の設置や全館フリーWi-Fi化など、より良いサービスの提供を追求する。

⑤地域に密着した学習の場の提供

【取組の概要】

- ◇公民館活動の活性化を図るため、中央公民館や市民館及び地区公民館等の連携強化に努め、市が進めるまちづくり自治会、まちづくり協議会の事業に協力し、住民に周知するチラシ、たよりを発行した。
- ◇NPO法人みかんネット香南などとの連携により、情報通信技術の学習活動を推進した。

【成果】

- ◇香我美市民館と山南まちづくり協議会との共同事業として防災訓練を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。

【課題・方針】

- ◇継続事業として、公民館活動の活性化を図るため、中央公民館や市民館及び地区公民館等の連携強化に努め、各種団体等への周知を行う。

⑥生涯学習推進組織の整備

【取組の概要】

- ◇社会教育関係団体の申請をさせることにより活動の把握及び支援の方法を検討する。
- ◇公民館活動とまちづくり自治会・協議会の活動をリンクさせ、生涯学習推進組織の強化を図る。

【成果】

- ◇市が進めるまちづくり自治会・協議会が徐々に設立され、活動の幅が広がって生涯学習の推進が図られた。

【課題・方針】

- ◇各公民館とまちづくり自治会・協議会の活動をリンクさせるための検討会を全地域で開催する必要がある。

⑦情報提供・相談機能の強化

【取組の概要】

◇市広報、市ホームページ、市民館たより、まちづくり協議会たよりなどを通じて事業・教室の周知を行った。

【成果】

◇重要文化財安岡家住宅一般公開の開催について市ホームページで発信することができた。

【課題・方針】

◇あらゆる情報機器を使用し、住民に対し情報発信を行い、最新情報に定期的に更新していく。

⑧指導者の育成・人材活用

【取組の概要】

- ◇子どもの安全を守るため、地域住民による子ども見守りボランティアの育成に努めた。
- ◇高齢者や地域の人材を活用した、知恵と経験に学ぶ世代間交流を積極的に推進した。
- ◇子どもの体験活動を推進するボランティア団体への支援を行った。

【成果】

◇人材バンクは、広報や各種団体等への呼びかけを継続して実施した。

【課題・方針】

- ◇人材バンクについてホームページを更新し制度について改めて周知をする。
また、登録者と利用者とのマッチングをスムーズにできる方法を検討する。
- ◇新型コロナウイルス感染症の影響により中止された「子ども司書養成講座」や「読書ボランティア養成講座」を復活させ、引き続き子どもの読書活動を推進させる。

⑨生涯学習を通じての地域づくり

【取組の概要】

◇香南市内の小学生を募集し、こどもよさこい連合会として「よさこい祭り」「みなこい港祭り」等へ参加の予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により各種イベントが中止となったため参加できなかった。

【成果】

◇今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、よさこい祭りをはじめ多くの事業が中止となった。

【課題・方針】

◇香南市の小学生を対象にしているが練習会場の関係から野市町内の小学生が主体となっており、市内全域からの参加に結びつけられていない。

⑩全ての人と共生する生涯学習の推進

【取組の概要】

◇新型コロナウイルス感染予防対策事業として、生涯学習施設に非接触検温測定器を設置し、トイレの蛇口栓を自動式又はプッシュ式へ改修した。

【成果】

◇市民の声を拾いながら迅速に対応したことで高齢者等の利用や安全性につながられた。

【課題・方針】

◇今後も市民の声を活かして適切に対応していく。

【評価】

多くの事業が新型コロナウイルス感染症の影響により中止となる中、開催時期や内容を見直すことにより学習機会の提供や交流の場づくりの支援が行えたことは評価できるが、ICT機器を活用した事業の在り方を検討・実施できなかったことは課題である。

2) 文化の継承と振興

重点取組事項

①芸術・文化活動の推進

②郷土の歴史・文化遺産の保存と継承

①芸術・文化活動の推進

【取組の概要】

◇文化関係団体との連携を図り、文化祭や美術展の開催、文化サークルによる発表会や展示会の実施を積極的に進め、芸術や文化の振興を図った。

◇子ども達に文芸に親しんでもらうため、岡本彌太文学賞の作品募集を行い、情操教育の推進を図った。

◇地域の文化活動を推進し、文化意識の高揚を図った。

【成果】

◇各地区で実施する文化祭・芸能大会や香美・香南市合同の芸能大会は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止となった。

◇各地区が開催している文化祭は、新型コロナウイルス感染拡大防止により、発表部門はホールによる無観客での開催、香南ケーブルテレビの映像を活用した実践発表を行った。野市地区文化協会の展示部門の開催はできた。

◇岡本彌太文学賞への作品応募が市内小・中学校に定着してきており、児童生徒の表現力の育成や詩・俳句の作成能力の向上につながっている。

【課題・方針】

◇新型コロナウイルス感染症の感染状況をみながら、文化活動の推進を検討し振興を図る。

②郷土の歴史・文化遺産の保存と継承

【取組の概要】

- ◇関係機関と連携して埋蔵文化財の発掘と保護に努めた。（試掘調査14件、遺跡調査報告書1件刊行
- ◇過去の遺跡写真ネガフィルムをデジタル化し、良好な保存に努めた。
- ◇香南市文化財センター等において、復元された出土品等を公開するとともに、遺跡の調査や公表を通じて文化財の保護意識の醸成を図った。
- ◇文化財めぐりの実施や小学校での出前授業を開催するなど、文化・歴史に触れられる機会を持った。
- ◇県指定旧赤岡町の土佐芝居絵屏風修復事業や重要文化財木造十一面観音立像他2件収蔵恵日寺修理事業や未指定文化財についての保存・修復活動、無形民俗文化財の伝承・保存活動を支援した。

【成果】

- ◇図書館や支所に本年度発行した埋蔵文化財調査報告書と報告書に関連する出土遺物や調査風景の写真などを展示し、埋蔵文化財発掘調査について知ってもらうことができた。
- ◇文化財の保存修理や保存活動を積極的に行うことができた。

【課題・方針】

- ◇文化財・埋蔵文化財について、その存在をさらに知ってもらい、理解を深め、関心を持ち、保護意識を高めてもらえるような方法（活動）を検討していく。

【評価】

コロナ渦の状況において、発掘事業や文化財啓発事業を行うことが困難な中、感染対策に務め事業を行うことができた。また伝承・保存活動についても、実行することができた。

安岡家住宅一般公開については、感染対策や重要文化財の汚損・破損防止対策を徹底し9月からスタートすることができた。

市指定文化財が昨年度に続き、令和2年度も新たに誕生したことや文化財防火デーやセンター展示室リニューアル、仏像修復（未指定）などの活動についても周知ができています。

3) 生涯にわたり親しみ高めあうスポーツの振興

重点取組事項

- ①生涯スポーツ・競技スポーツの推進
- ②スポーツ環境の充実
- ③スポーツ指導員の養成・人材活用

①生涯スポーツ・競技スポーツの推進

【取組の概要】

- ◇NPO法人こうなんスポーツクラブ・NPO法人YASU海の駅クラブ等と連携し、ライフステージに合わせたスポーツ活動を推進するとともに、各種スポーツの普及やスポーツ

教室を開催した。

◇スポーツ少年団やスポーツ協会等の活動を支援し、競技力向上を図った。

【成果】

◇新型コロナウイルス感染症の影響により一部の教室や大会を中止したことに伴い、開催回数は昨年度に比べて減少したが、NPO法人と連携して概ね計画どおりに教室や大会を開催し、生涯スポーツの振興に寄与した。

*こうなんスポーツクラブ 教室：15事業（延べ496回） 大会：3大会

*YASU海の駅クラブ 3事業（市長杯ヨット大会、シースポーツ体験、
香南ジュニアヨットクラブの育成）

◇スポーツ少年団とスポーツ協会の活動に関し、補助金や施設使用料の減免などの財政的支援を継続して実施することにより、団体数の維持が図られた。

令和2年度（令和元年度）

*スポーツ少年団 27団体（26団体）

*スポーツ協会 644人（691人）

【課題・方針】

◇一層の健康増進を図るため、既存競技だけでなく小学生から高齢者まで楽しめるニュースポーツを企画立案し、継続して行えるようスポーツクラブと連携していく必要がある。

◇少子高齢化等で運動会など参加者集めに苦慮しており、またその運営に関しても後継者不足がみられる。

◇本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、スポーツを通じての活躍の場が減少した。

②スポーツ環境の充実

【取組の概要】

◇スポーツに関する情報の提供や、体育施設や学校施設の有効的な活用を図り、より身近にスポーツを感じる機会の充実に努めた。

◇スポーツ施設の改修を行う等スポーツ環境の整備を行った。

（手続道場フローア修繕、赤岡相撲場土俵修繕、山下グリーンテニス場防風・防砂ネット取替修繕など）

【成果】

◇修繕工事に伴う利用制限により十分な練習環境を提供できない期間もあったが、県民スポーツフェスティバルなどで上位の成績が残せた。

【課題・方針】

◇毎年度、突発的な修繕工事が必要となっているため、施設の定期的な点検を実施し、計画的に改修や設備の交換を行う必要がある。

③スポーツ指導員の養成・人材活用

【取組の概要】

◇地域スポーツクラブの育成を図り、各種スポーツ指導者の養成と人材の確保に努めた。

◇スポーツ推進員が地域で活躍できる体制づくりの取組として地区運動会等を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。

【成果】

◇新たに数人がスポーツ少年団認定指導員資格を取得でき、有資格者が確保できた。

【課題・方針】

◇スポーツ推進員の高齢化が進行しており、今後は若い世代の人材確保が急務である。

【評価】

新型コロナウイルス感染症の影響により大会等の中止はあったが、感染症対策を講じながらNPO法人やスポーツ少年団、スポーツ協会を中心に活動を行うことで市民の健康保持や増進、スポーツの楽しさの再認識などコロナ禍においてスポーツ振興の意識を低下させることなく取り組めたことは大きいと考える。

4. 成果指標の点検・評価結果一覧表

基本目標／施策名／成果指標		担当課	評価
1. 生きる力を育む就学前・学校教育の推進			
(1) 保幼小中連携（一貫）教育の推進			
①保幼小中・家庭・地域連携（一貫）教育の推進			
1	交流活動を組織として位置付ける（よくできた、できたと回答した割合）	学校教育課	B
2	交流活動の際、育てたい力の共通理解（よくできた、できたと回答した割合）	学校教育課	B
(2) 家庭や地域と連携した教育の推進（チーム学校の取組）			
①厳しい環境にある子どもたちへの支援			
3	香南市チャレンジ塾の開設数	学校教育課	B
4	子育て親育ち講演会への参加者数	こども課	C
②学校の組織マネジメント力の強化			
5	学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組んでいる学校の割合（「よく行っている」と回答した学校の割合）	学校教育課	—
6	学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している学校の割合（「よく行っている」と回答した学校）	学校教育課	—
③不登校の改善			
7	不登校児童・生徒の割合（不登校児童・生徒数／総児童・生徒数）	学校教育課	C
④子どもが育ちやすい地域コミュニティの再構築			
8	こうなんファミリーサポートセンター会員数	こども課	B
9	市の子育て情報サイトへのアクセス数	こども課	A
10	地域学校協働本部設置数	学校教育課	A
11	コミュニティ・スクール設置数	学校教育課	A
⑤家庭の教育力の向上			
12	【再掲No. 7】 不登校児童・生徒の割合（不登校児童・生徒数／総児童・生徒数）	学校教育課	C
13	毎日朝食を食べる児童生徒の割合（3歳児）	こども課	B
14	毎日朝食を食べる児童生徒の割合（小学校6年生・中学校3年生）	学校教育課	B
15	【再掲No. 4】 子育て親育ち講演会への参加者数	こども課	C
⑥放課後の子どもの生活・学習支援の充実			
16	放課後児童クラブの利用者数	こども課	B
17	放課後児童クラブ、放課後子ども教室の支援員等研修会実施回数	こども課	A
(3) これからの社会を生き抜く力を育む教育の推進			
①就学前教育の充実			
18	市職員研修及び園内研修の実施回数	こども課	B
19	子育て支援センター利用者数（児童のみ）	こども課	B

②確かな学力の育成			
20	【再掲No. 6】学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している学校の割合（「よく行っている」と回答した学校）	学校教育課	—
21	ICT機器を活用した校内授業研修を実施したか。	学校教育課	A
22	言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体で取り組んでいる学校の割合（「よく行っている」と回答した学校の割合）	学校教育課	—
③豊かな心の育成			
23	自分にはよいところがあると思うか。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）	学校教育課	A
24	将来の夢や目標を持っているか。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）	学校教育課	B
④キャリア教育の推進			
25	【再掲No. 24】将来の夢や目標を持っているか。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）	学校教育課	B
26	難しいことでも失敗を恐れないで挑戦しているか。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）	学校教育課	—
⑤人権教育の推進			
27	人権教育について計画的に実施することができた学校数	学校教育課	A
28	いじめが解消した割合（いじめが解消した件数/いじめの認知件数）	学校教育課	B
⑥健やかな体の育成と健康の増進			
29	【再掲No. 13】毎日朝食を食べる児童生徒の割合（3歳児）	学校教育課	B
30	【再掲No. 14】毎日朝食を食べる児童生徒の割合（小学校6年生・中学校3年生）	学校教育課	B
31	地域人材を活用しての料理教室などの取組を実施した学校数	学校教育課	B
32	肥満傾向率（小学校5年生）	学校教育課	C
⑦特別支援教育の推進			
33	個別の指導計画書を作成した保幼小中の割合（保育所・幼稚園）	学校教育課	A
34	個別の指導計画書を作成した保幼小中の割合（小学校・中学校）	学校教育課	—
35	スマイルサポート支援ファイル及び支援シートを活用した引き継ぎの実施校数	こども課 学校教育課	A
(4) きめ細かな教育の推進			
①教職員の専門性・指導力の向上			
36	授業の内容がよくわかると回答した児童生徒の割合（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）【国語】	学校教育課	—
37	授業の内容がよくわかると回答した児童生徒の割合（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）【算数・数学】	学校教育課	—
②保育所・学校運営の充実			
38	【再掲No. 10】地域学校協働本部設置数	学校教育課	A
39	保育所・学校評議員連絡会（中学校区）の開催数	こども課 学校教育課	C
40	【再掲No. 11】コミュニティ・スクール設置数	学校教育課	A

③生徒指導の充実			
41	【再掲No. 5】 学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組んでいる学校の割合（「よく行っている」と回答した学校の割合）	学校教育課	—
42	学校に行くのは楽しいと思うと回答した児童生徒の割合（「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」回答した割合）	学校教育課	A
④教育相談・支援体制			
43	【再掲No. 7】 不登校児童・生徒の割合（不登校児童・生徒数／総児童・生徒数）	学校教育課	C
(5) 安全な教育環境での教育の推進			
①防災教育等の推進			
44	多様な状況での避難訓練を計画的に実施できたか。	こども課 学校教育課	A
45	学校安全プログラムを活用した年間5時間以上の防災教育が実施できたか。	学校教育課	A
②保育所、幼稚園、小・中学校の環境整備			
46	小・中学校における非構造部材の耐震化	学校教育課	A
47	小・中学校におけるトイレの洋便器化	学校教育課	A
48	通園・通学路の点検を定期的に行ってきたか。	こども課 学校教育課	A
49	学校内の施設等に関する安全点検が定期的に行ってきたか。	学校教育課	A
2. 生き生きと学ぶ生涯学習の推進			
(1) 生涯にわたり豊かな心を育む環境づくり			
①ライフステージに対応した学習の充実（家庭教育・学校教育・社会教育）			
50	夏休み子ども教室の回数（参加者数）	生涯学習課	D
51	三世代交流事業参加者数（凧揚げ）	生涯学習課	D
②生きがいを得る学習機会の充実			
52	いきいきセミナーの開催回数	生涯学習課	D
53	生涯学習人材バンクの登録者数	生涯学習課	C
③現代的課題に対応した学習機会の充実			
54	各種教室の開催回数	生涯学習課	D
55	各種教室の延べ参加者数	生涯学習課	D
④学習施設の整備			
56	図書館の入館者数	生涯学習課	C
57	図書館の貸出冊数	生涯学習課	B
⑤地域に密着した学習の場の提供			
58	地区公民館等の利用者数	生涯学習課	D
⑥生涯学習推進組織の整備			

⑦情報提供・相談機能の強化			
59	生涯学習課ホームページ更新回数	生涯学習課	A
⑧指導者の育成・人材活用			
60	読書ボランティア等登録者数	生涯学習課	C
61	【再掲No. 53】生涯学習人材バンクの登録者数	生涯学習課	C
⑨生涯学習を通じた地域づくり			
62	【再掲No. 50】夏休み子ども教室の回数（参加者数）	生涯学習課	D
⑩全ての人と共生する生涯学習の推進			
63	社会体育施設の障害者用トイレの整備	生涯学習課	B
(2) 文化の継承と振興			
①芸術・文化活動の推進			
64	公民館自主事業（舞台・演奏公演）の実施回数	生涯学習課	D
65	文化協会支援事業（文化祭・芸能大会等）	生涯学習課	D
66	市美術展覧会の入場者数	生涯学習課	B
②郷土の歴史・文化遺産の保存と継承			
67	文化財ボランティアガイド登録者数	生涯学習課	C
68	文化財啓発事業の実施回数	生涯学習課	C
69	小・中学校への出前講座の実施回数	生涯学習課	C
(3) 生涯にわたり親しみ高めあうスポーツの振興			
①生涯スポーツ・競技スポーツの推進			
70	市長杯等の参加者数	生涯学習課	A
71	スポーツ教室延べ開催数	生涯学習課	A
72	市民ウォーキング大会参加者数	生涯学習課	D
②スポーツ環境の充実			
73	体育施設（学校開放施設含む）の障害者用トイレ設置数	生涯学習課	B
74	ウォーキングコースの設定箇所数	生涯学習課	A
③スポーツ指導者の育成・人材活用			
75	スポーツ少年団認定指導員資格取得者数	生涯学習課	A

評価	判断基準
A	目標・計画どおりに取組を実施し、充分成果がでている。
B	目標・計画どおりに取組を実施し、ある程度成果がでている。
C	目標・計画どおりに取組を実施したが、あまり成果がでていない。
D	目標・計画どおりに取組を実施できなかった。

5. 成果指標の点検・評価結果

基本目標		1. 生きる力を育む就学前・学校教育の推進			
		(1) 保幼小中連携（一貫）教育の推進			
施策名		①保幼小中・家庭・地域連携（一貫）教育の推進			
整理No	1	担当課	学校教育課	評価	B
成果指標	交流活動を組織として位置付ける（よくできた、できたと回答した割合） ※教職員を対象とした連携についてのアンケート調査より				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
31%	—	68%	80%以上	85.0%	
取組概要	新型コロナウイルス感染症の影響による制限が生じたため、各中学校区では年間計画を変更しながらできる取組を実施している。年間2回実施の連携担当者会は、1回目は中止、2回目は集合研修として開催し、各中学校区で工夫して取り組んできた内容の共有と次年度の計画を協議した。				
課題 (今後の方向性)	令和2年度は、年度当初の小・中学校の休業もあり、十分な確認の下での実施が困難であり、実績数値に繋がっている。来年度は、感染症拡大防止に最大限勤めながら、ICT機器も十分に活用して、まずは令和元年度ベースの取組に戻していきたい。				
整理No	2	担当課	学校教育課	評価	B
成果指標	交流活動の際、育てたい力の共通理解（よくできた、できたと回答した割合） ※教職員を対象とした連携についてのアンケート調査より				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
51%	91%	50%	80%以上	62.5%	
取組概要	新型コロナウイルス感染症の影響による制限が生じたため、各中学校区では年間計画を変更しながらできる取組を実施している。年度当初の各学校の臨時休業により取組に対する確認が取れない状況があったうえ、交流活動そのものを中止したり、制限に伴う変更をしたりして、過年度並みの交流は困難であった。				
課題 (今後の方向性)	令和2年度は、年度当初の小・中学校の休業もあり、十分な確認の下での実施が困難であり、実績数値に繋がっている。来年度は、感染症拡大防止に最大限勤めながら、ICT機器も十分に活用して、まずは令和元年度ベースの取組に戻していきたい。				

基本目標	1. 生きる力を育む就学前・学校教育の推進			
	(2) 家庭や地域と連携した教育の推進 (チーム学校の取組)			

施策名		①厳しい環境にある子どもたちへの支援			
整理No	3	担当課	学校教育課	評価	B
成果指標	香南市チャレンジ塾の開設数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
2教室	2教室	2教室	4教室	50.0%	
取組概要	<p>香南市内の全ての中学校3年生を対象に、10月1日から翌年2月29日まで、毎週月曜日と水曜日の午後6時30分から8時30分まで、赤岡市民館とのいちふれあいセンターの2カ所で教室を開き、英語と数学について学習を進め、高校進学を目指した学習を実施した。</p> <p>赤岡教室：18名 野市教室：16名</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、塾生の人数を制限する必要があった。今後は感染症対策をした上で、教室数を増やすための参加募集の工夫や支援員の確保が課題となる。</p>				
整理No	4	担当課	こども課	評価	C
成果指標	子育て親育ち講演会への参加者数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
596人	545人	284人	650人以上	43.7%	
取組概要	<p>香南市立の所・園ごとに企画した講演会と香南市全体の就学前の子どもを持つ保護者に向けた講演会を年間計画に沿って実施している。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、講演会の開催回数及び参加者数が減少したが、今後、コロナウイルス感染症対策を取りながら、保護者の参加数を増やせるよう、就学前の子育て世代にとって関心・ニーズの高い内容の構成と周知についても工夫が必要である。</p>				

施 策 名		②学校の組織マネジメント力の強化			
整理No	5	担当課	学校教育課	評 価	—
成果指標	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組んでいる学校の割合（「よく行っている」と回答した学校の割合） ※全国学力・学習状況調査（学校質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校50.0% 中学校75.0%	小学校57.1% 中学校50.0%	小学校 — 中学校 —	小学校70.0%以上 中学校80.0%以上	小学校 — 中学校 —	
取組概要	小・中学校では、企画運営部、研究推進部、生徒指導部（名称は各学校で異なる）等の各部署で協議されたことを、職員会や職員研修等の場を核として教職員で共有・確認しながら組織的に取り組んでいるが、多岐にわたる取組事項について「よく行っている」という強肯定の回答をする学校は少ない。				
課 題 （今後の方向性）	令和2年度は、指標を測るための全国学力・学習状況調査が中止となり、数値は未定だが、来年度も県指定事業、市担当者会等を活用し、改善に向けた取組を進めていく。				
整理No	6	担当課	学校教育課	評 価	—
成果指標	学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している学校の割合（「よく行っている」と回答した学校） ※全国学力・学習状況調査（学校質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校50.0% 中学校75.0%	小学校14.3% 中学校25.0%	小学校 — 中学校 —	小学校100.0% 中学校100.0%	小学校 — 中学校 —	
取組概要	中学校では、各教科の「タテ」持ちや教科間連携の取組等による「教科会」「チーム会」の位置付けにより、組織的な取組を推進してきている。小学校では、各種学力調査等の分析を組織的に行う風土が随分整ってきているが、まだまだ学級担任や学年団の動きが中心の学校もある。また、若年教員の増加により教員間の指導力にもばらつきが認められる。				
課 題 （今後の方向性）	令和2年度は、指標を測るための全国学力・学習状況調査が中止となり、数値は未定だが、来年度も県指定事業、市担当者会等を活用し、改善に向けた取組を進めていく。				

施策名		③不登校の改善			
整理No	7	担当課	学校教育課	評価	C
成果指標	不登校児童・生徒の割合（不登校児童・生徒数／総児童・生徒数）				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校1.31% 中学校5.03%	小学校1.05% 中学校4.86%	小学校1.06% 中学校5.01%	小学校0.50%以下 中学校3.50%以下	小学校47.2% 中学校69.9%	
取組概要	<p>「魅力ある学校づくり」に向け、市内各校で担当者を中心に不登校児童・生徒を発生させない学校・学級づくりに向けて取組を進めることができた。また、不登校児童生徒に対しては、学校、SC、SSW、教育支援センター、関係機関が互いに連携し合い、改善に向けて継続的に取り組むことができた。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>魅力ある学校づくり調査研究事業の基本的な考え方を、全ての学校が取入れ継承していくことで不登校の未然防止に努め、その結果不登校児童生徒数の減少につなげていく。</p>				

施策名		④子どもが育ちやすい地域コミュニティの再構築			
整理No	8	担当課	こども課	評価	B
成果指標	こうなんファミリーサポートセンター会員数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
30人 (H29.1.18現在)	86人	102人	150人以上	68.0%	
取組概要	<p>ファミリーサポートセンター事業の周知を行い、会員数を増加させ事業の充実を図る。まかせて会員講習会の開催、会員同士の交流会の開催、ファミサポ通信の作成を行う。</p> <p>令和2年4月より、預かり場所としてまかせて会員の自宅以外に公共施設（のいちふれあいセンター内「にこにこルーム」及び総合子育て支援センター「にこなん」）においても活動できるようになった。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>共働き家庭などのニーズは高まっているが、ボランティアのなり手が不足しており、まかせて会員数は伸び悩んでいる。また、マッチングに苦慮するケースや会員登録はしているものの活動にいたらない会員も多い。今後も社会福祉協議会と協働し、子育てに関して経験豊富な保育士OBに声かけを行うなど受け皿となるまかせて会員の確保に努める。また、感染予防対策を実施したうえで、子育て援助活動を継続していく。</p>				

整理No	9	担当課	こども課	評価	A
成果指標	市の子育て情報サイトへのアクセス数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
—	9,063回	8,798回	6,000回以上	146.6%	
取組概要	<p>妊娠期から就学期までの、助成制度や子育て支援制度、子育ての悩み事や困った時の相談先、子育て関連情報を見やすくまとめてインターネット上のサイトに掲載している。また、普及の進んだスマートフォン用サイトへつなぐQRコードを設定し手軽にアクセスできるようにし、サイトの周知を図っている。</p> <p>また、登録された子育て世帯には、メルマガとして「エプロンだより」と「すこやか通信」をメール配信し、各種健診や予防接種、育児学級など子育てに関するタイムリーな情報も提供している。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>子育て情報サイト「香南キッズ」の周知をこれまで以上に多くの場面で行うとともに、関連する部署と連携し内容の充実を図る。</p> <p>スマートフォンアプリ「LINE」を活用した市のHPと連動した情報発信ツールの普及と合わせてサイトのリニューアルを行う。</p> <p>関連する部署と連携しながらニーズに応じた見やすい情報発信に努める。</p>				
整理No	10	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	地域学校協働本部設置数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
4校	11校	11校	11校	100.0%	
取組概要	<p>幅広い地域住民等の参画により、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動を行う「地域学校協働本部」を設置し、地域と学校とが連携・協働し、授業支援や放課後学習支援、登下校見守り、周辺環境整備等を実施している。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>令和2年度はコロナ禍により、本格実施が2学期以降となった学校も多かった。コロナ禍の中でも地域は学校を支援してくれようとしているが、人材は高齢者が多く活発な対面交流が難しい状況である。地域の中での見守り等、接触が少なく多人数の対面ではない場面の工夫や積極的な情報発信等により、地域と学校の協働関係を維持していくことが重要である。</p>				

整理No	11	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	コミュニティ・スクール設置数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
0校	3校	3校	11校	27.3%	
取組概要	令和2年度より赤岡小に加え、野市小と赤岡中が実施している。3校以外は令和3年度より実施に向けて準備期間とした。				
課題 (今後の方向性)	実施されている3校以外の学校については、コミュニティ・スクール設置に向けて準備していく。 学校評議員の仕組みから学校運営協議会に移行していけるように、規則等の整備を行っていく。				

施策名		⑤家庭の教育力の向上			
整理No	12	担当課	学校教育課	評価	C
成果指標	【再掲No.7】 不登校児童・生徒の割合（不登校児童・生徒数／総児童・生徒数）				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校1.31% 中学校5.03%	小学校1.05% 中学校4.86%	小学校1.06% 中学校5.01%	小学校0.50%以下 中学校3.50%以下	小学校47.2% 中学校69.9%	
整理No	13	担当課	こども課	評価	B
成果指標	毎日朝食を食べる児童生徒の割合（3歳児）				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
95.3%	96.5%	96.4%	98%以上	98.4%	
取組概要	新型コロナウイルス感染症の関係で、3歳児の保護者を対象にした基本的な生活習慣に関する学習会が中止や書面での実施となった。また、給食試食会や親子料理教室が中止になり、保護者への啓発の機会が減ったため、給食だよりやクラスだより等で保育所での子どもの様子を伝えたり朝食の大切さの啓発を行った。 健康対策課と連携をとり、子ども達に朝食をテーマにした食育劇を実施するなど、食育事業に取り組んだ。				
課題 (今後の方向性)	ライフスタイルの多様化もあり、料理の機会や経験が少ない親が増えてきているため、そこに対する意識付けが課題であり、今後も、感染症予防を行いながら、保育・幼稚園等と連携した食育事業、パパママ教室や乳幼児健診での指導、総合子育て支援センターでの栄養相談を継続していき、その中で朝食について重点的に、生活リズムを含めた更なる啓発を行う。				

整理No	14	担当課	学校教育課	評価	B
成果指標	毎日朝食を食べる児童生徒の割合（小学校6年生・中学校3年生）				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校87.3% 中学校91.8%	小学校98.1% 中学校93.4%	小学校95.7% 中学校93.2%	小学校96.0%以上 中学校94.0%以上	小学校 99.7% 中学校 99.1%	
取組概要	給食指導時間における栄養教諭等による食育指導（食品と栄養素について、朝食摂取による効能・効果）や体育科・保健体育科、家庭科での栄養・保健の内容、基本的な生活習慣の内容の学習に加え、参観日等を活用し、保護者への啓発活動を行っている。				
課題 (今後の方向性)	小学校は、若干目標数値を下回っているが、生活習慣確立には時間がかかるため、今後も継続的に教科場面での指導、保健指導、食育指導等の様々な機会を通して、児童生徒に朝食摂取の意義を伝え、実践に結び付けるようにする。また、各種通信等も活用し、保護者等にも継続な啓発を行っていく。				
整理No	15	担当課	こども課	評価	C
成果指標	【再掲No.4】 子育て親育ち講演会への参加者数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
596人	545人	284人	650人以上	43.7%	

施策名	⑥放課後の子どもの生活・学習支援の充実				
整理No	16	担当課	こども課	評価	B
成果指標	放課後児童クラブの利用者数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
336人	390人	377人	385人	97.9%	
取組概要	放課後児童クラブを市内10カ所で開設し、共働き家庭等の児童（1～6年生）を対象として放課後から18時（一部18時30分）まで遊びや生活の場を提供し、子どもたちの健全育成の向上を図る。 ※R3.3月現在の入会児童は、野市小114人、佐古小69人、野市東小63人、赤岡小8人、香我美小50人、夜須小45人				
課題 (今後の方向性)	待機児童の生じていた野市小・香我美小で放課後児童クラブの新設工事を行ったことで、R3年度に向けての施設環境を整えることができたが、受け皿となる支援員の確保が最重要課題となっている。 具体的には、ハローワークや広報誌などの媒体を使った情報発信をはじめ、現在勤務している支援員や、児童クラブを利用している保護者へ支援員募集を呼びかけたり、小学校や中学校で働く特別支援教育支援員などへアプローチするなど、あらゆる手段を講じて求人の開拓を行っていく。 また、より柔軟な運営を図るため民営化を検討する。				

整理No	17	担当課	こども課	評価	A
成果指標	放課後児童クラブ、放課後子ども教室の支援員等研修会実施回数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
6回	11回	7回	6回	116.7%	
取組概要	放課後児童支援員及び補助員の資質向上を図るため、市主催の研修を実施するとともに、県等主催の研修に参加した。				
課題 (今後の方向性)	新型コロナウイルス感染症の影響で開催回数及び参加者数ともに減少し、延べ48人が研修会へ参加した。今後も支援員のさらなる資質向上及びスキルアップを図っていく。				

基本目標	1. 生きる力を育む就学前・学校教育の推進
	(3) これからの社会を生き抜く力を育む教育の推進

施策名	①就学前教育の充実				
整理No	18	担当課	こども課	評価	B
成果指標	市職員研修及び園内研修の実施回数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
52回	71回	51回	52回以上	98.1%	
取組概要	様々な経験年数の職員が主体的に情報共有しあうため、園内研修会を中心に研修を行った。 保幼職員研修会1回、副所属長研修会2回、中堅保育者研修会1回、園内研修会63回、研究主任会3回				
課題 (今後の方向性)	コロナウイルス感染症対策を取りながら、引き続き主体的な研修の実施を行いながら、保育・教育の質の向上につなげていく。				

整理No	19	担当課	こども課	評価	B
成果指標	子育て支援センター利用者数（児童のみ）				
平成27年度 （計画作成時）	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
4,811人	4,677人	5,173人	7,000人以上	73.9%	
取組概要	令和元年7月に開所した総合子育て支援センターにこなんを中心に、就学前の児童及びその保護者（主として就園前の児童とその保護者）が相互の交流を行う親子の交流広場や子育てについての相談、情報の提供などの子育て支援を実施する。令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、一時休館や利用制限を設けての開設など工夫しながら事業を実施してきたため、利用者数が少なくなっている。				
課題 （今後の方向性）	就学前の保護者の子育てに対する不安感や悩みを軽減し、子育てに活かしていただけるよう、妊娠から出産、育児まで、関係機関と連携しながら切れ目のない子育て支援を目指す中で、にこなんを拠点とした相談体制の拡充や病後児保育などサービスを充実させることにより利用者の増加を目指す。引き続き、新型コロナウイルス感染症予防対策をしながら事業を継続する。				

施策名	②確かな学力の育成				
整理No	20	担当課	学校教育課	評価	—
成果指標	【再掲No.6】 学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している学校の割合（「よく行っている」と回答した学校）				
平成27年度 （計画作成時）	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校50.0% 中学校75.0%	小学校14.3% 中学校25.0%	小学校 — 中学校 —	小学校100.0% 中学校100.0%	小学校 — 中学校 —	
整理No	21	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	ICT機器を活用した校内授業研修を実施したか。				
平成27年度 （計画作成時）	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
75.0%	100%	100%	100%	100.0%	
取組概要	各学級に大型モニタ、授業者用タブレットの配置により、主にデジタル教科書を用いたICT機器を活用した授業を展開している。小学校においてはプログラミング教育推進のための校内研修、及び授業実践が全ての学校で実施されている。				
課題 （今後の方向性）	GIGAスクール構想に伴い一人一台端末が整備することとなり、教職員のICT機器活用スキルの獲得が急務である。使用することが目的化しないよう、効果的な活用を趣旨として活用できるような研修会等を企画していく。				

整理No	22	担当課	学校教育課	評価	—
成果指標	<p>言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体で取り組んでいる学校の割合（「よく行っている」と回答した学校の割合） ※全国学力・学習状況調査（学校質問紙）結果より</p>				
平成27年度 （計画作成時）	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校37.5% 中学校0.0%	小学校14.3% 中学校0.0%	小学校 — 中学校 —	小学校100.0% 中学校100.0%	小学校 — 中学校 —	
取組概要	<p>小・中学校ともに、県指定事業や校内研修等各種研修の際には言語活動の充実に向けた取組を推進するよう教職員で確認し、実践につなげているところである。 令和2年度は、指標を測るための全国学力・学習状況調査が中止となり、数値は未定である。</p>				
課題 （今後の方向性）	<p>新型コロナウイルス感染症への対応や若年教員の増加等に伴い、おそらく「よく行っている」という強肯定ほどの認識が持てないと予想される。引き続き、各学校の授業スタンダードに基づいた授業実践の際の徹底を図る。</p>				

施策名	③豊かな心の育成				
整理No	23	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	<p>自分にはよいところがあると思うか。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合） ※全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）結果より</p>				
平成27年度 （計画作成時）	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校77.7% 中学校61.1%	小学校88.5% 中学校63.6%	小学校83.4% 中学校75.3%	小学校80%以上 中学校70%以上	小学校104.3% 中学校107.6%	
取組概要	<p>指定事業を受け、全ての小・中学校で、受容的で共感的な子ども理解を進めるとともに、「いいところ見つけ」などの子ども相互が認め合えるような取組や教員が児童生徒のよさや頑張りに対して肯定的な言葉をかける「ボイスシャワー」などの取組を行っている。</p>				
課題 （今後の方向性）	<p>令和2年度は、指標である全国学力・学習状況調査が中止となったが、同年度実施された高知県児童生徒学習状況調査にて同項目が設定されていたため、その結果を記載。令和3年度の目標数値に対して小中学校共に達成している状況であるが、今後も新型コロナウイルス感染症への対応や若年教員の増加等の状況が続くことが予想されることから、引き続き、授業スタンダードに基づく、生徒指導の三機能が発揮された授業実践を図る。</p>				

整理No	24	担当課	学校教育課	評価	B
成果指標	将来の夢や目標を持っているか。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合） ※全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校88.9% 中学校64.5%	小学校88.8% 中学校76.8%	小学校85.2% 中学校80.2%	小学校95%以上 中学校70%以上	小学校 89.7% 中学校114.6%	
取組概要	キャリア教育の視点も踏まえ、将来の夢や希望を持たせ、進路指導にもつなげることを意図し、校外学習（社会見学、生産者との交流等）や職場体験学習の実施している。				
課題 （今後の方向性）	社会に開かれた教育課程を念頭に、総合的な学習の時間等も活用しながら地域社会とつながる機会を増やすとともに、これまでの取組を継続させる。なお、指標である令和2年度の全国学力・学習状況調査は中止となったが、高知県児童生徒学習状況調査にて同項目の調査が実施されたため、その数値を指標として用いる。				

施策名	④キャリア教育の推進				
整理No	25	担当課	学校教育課	評価	B
成果指標	【再掲No. 24】 将来の夢や目標を持っているか。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合） ※全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校88.9% 中学校64.5%	小学校88.8% 中学校76.8%	小学校85.2% 中学校80.2%	小学校95%以上 中学校70%以上	小学校 89.7% 中学校114.6%	
整理No	26	担当課	学校教育課	評価	—
成果指標	難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦しているか。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合） ※全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校78.8% 中学校68.3%	令和元年度調査では、この項目が削除されている。	小学校 — 中学校 —	小学校85%以上 中学校80%以上	小学校 — 中学校 —	
取組概要	児童生徒理解のうえに実態に応じた課題を設定し、スモールステップで課題が解決ができるようにすることで多くの成功体験を味わわせ、以降の挑戦意欲が高まるような工夫を行ったり、児童が向上的変容を実感できるように学習の最後には振り返りの時間を設定したりするなど、全ての教育活動で児童生徒を支援する取組を実施している。 令和2年度は、指標を測るための全国学力・学習状況調査が中止となり、数値は未定である。				
課題 （今後の方向性）	日々の各教科等の学習場面や体験活動等の前と後には、目標設定する場面や振り返りをする場面を設定し、児童生徒が自己の成長を感じさせるような取組を行ってきているが、児童生徒一人ひとりの性格や特性が異なることもあり、長期的な取組として、継続していく必要がある。				

施 策 名		⑤人権教育の推進			
整理No	27	担当課	学校教育課	評 価	A
成果指標	人権教育について計画的に実施することができた学校数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
100%	100%	100%	100%	100.0%	
取組概要	<p>学校の人権教育年間指導計画に基づいて、各教科・領域等と関連を図りながら計画的・系統的に人権教育を展開することを通して、知識的側面、価値的・文化的側面・技能的側面をバランスよく育成し、人権に関する知的理解と人権感覚の涵養を目指して取組を進める。</p>				
課 題 (今後の方向性)	<p>各学校では、講師やテーマを変えながら人権教育年間指導計画に合わせた実践を計画的に実施することができた。課題として、若年経験者教師の相対的な増加もあるため、児童生徒に身に付けさせたい力及び単元を通じたゴールイメージをもった授業の展開に向けて組織的な取組が必要である。</p>				
整理No	28	担当課	学校教育課	評 価	B
成果指標	いじめが解消した割合 (いじめが解消した件数/いじめの認知件数)				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校67.3% 中学校90.9%	小学校93.4% 中学校49.4%	小学校76.6% 中学校76.3%	小学校90%以上 中学校92%以上	小学校 85.1% 中学校 82.9%	
取組概要	<p>日頃から子どもたちの様子に目を向けるとともに、「問題行動調査」によって実態を把握している。調査することで学校や教育委員会の問題意識を高め、未然防止や早期対応の取組を行っている。</p>				
課 題 (今後の方向性)	<p>いじめの解消のためには、早期発見がカギとなる。教員はいじめに対するアンテナを張り、子ども間の変化を敏感にキャッチできるようさらに意識を高めていくことが課題である。</p>				

施 策 名		⑥健やかな体の育成と健康の増進			
整理No	29	担当課	こども課	評 価	B
成果指標	【再掲No.13】 毎日朝食を食べる児童生徒の割合（3歳児）				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
95.3%	96.5%	96.4%	98%以上	98.4%	
整理No	30	担当課	学校教育課	評 価	B
成果指標	【再掲No.14】 毎日朝食を食べる児童生徒の割合（小学校6年生・中学校3年生）				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校87.3% 中学校91.8%	小学校98.1% 中学校93.4%	小学校95.7% 中学校93.2%	小学校96.0%以上 中学校94.0%以上	小学校 99.7% 中学校 99.1%	
整理No	31	担当課	学校教育課	評 価	B
成果指標	地域人材を活用しての料理教室などの取組を実施した学校数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
100%	100%	63%	100%	63.0%	
取組概要	新型コロナウイルス感染症の影響による制限が生じたため、小学校6校、中学校1校のみの取組みとなったが、食育改善委員やJAの方に来ていただき、お弁当作りや朝食作りに取り組むことができた。また、地域学校協働本部事業を活用し、地域の方による朝食作りに取り組んだ学校もあった。				
課 題 (今後の方向性)	小5朝食作り・中1お弁当作りは全校で取り組む予定だが、それ以外でも各校で食育に関する取組がされているが学校間で差がある。支援してくれる組織や人材の確保も難しい場合がある。 授業時間の確保が難しい中、ヘルスメイト・JA婦人部などの協力を得ながら、郷土料理教室などの開催を継続していく。				

整理No	32	担当課	学校教育課	評価	C
成果指標	肥満傾向率（小学校5年生）				
平成27年度 （計画作成時）	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
12.5%	13.0%	16.8%	10%以下	59.5%	
取組概要	給食時の栄養教諭による指導や体育科・保健体育科、家庭科等での指導のほか、始業前の時間や長い休み時間、体育集会などの場面を利用して運動機会の保障に向けた取組を企画運営するなど、年間を通じた取組を行っている。また、保護者に対しては、懇談会や通信等を通じて、基本的な生活習慣の定着に向けた取組の紹介や啓発を行っている。				
課題 （今後の方向性）	基本的な生活習慣と運動習慣の確立に向け、今後も継続的に取組を行っていく。体育・保健体育科の授業において、運動量が確保された授業づくりを目指す。				

施策名		⑦特別支援教育の推進			
整理No	33	担当課	こども課	評価	A
成果指標	個別の指導計画書を作成した保幼小中の割合（保育所・幼稚園）				
平成27年度 （計画作成時）	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
100%	100%	100%	100%	100.0%	
取組概要	支援の必要な園児の個別の指導計画は適切に作成している。				
課題 （今後の方向性）	引き続き支援の必要な園児についてはもれなく個別指導計画を作成していく。				

整理No	34	担当課	学校教育課	評価	—
成果指標	個別の指導計画書を作成した保幼小中の割合（小学校・中学校）				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校60.0% 中学校28.3%	小学校92.5% 中学校88.6%	小学校 — 中学校 —	小学校100% 中学校100%	小学校 — 中学校 —	
取組概要	<p>校長会及び担当者会で作成の目的について説明することで、各学校ともに計画的に作成ができています。また、特別支援教育アドバイザーの巡回訪問や研修会を通じて、個別の指導計画及び支援計画書について作成支援・指導を行ってきたので、個に応じた支援への成果が表れている。</p> <p>令和2年度は、高知県における特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する状況調査がなかったため、指標の割合について把握できていない。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>特別支援学級及び通級に在籍している児童生徒については個別の指導計画は作成しており、活用ができています。通常の学級に在籍している児童生徒で、個別の指導計画の作成を必要としている児童生徒についての作成は少しずつではあるが作成ができつつある。今後も個に応じた支援ができるよう取り組みを進めていく必要がある。</p>				
整理No	35	担当課	こども課・学校教育課	評価	A
成果指標	スマイルサポート支援ファイル及び支援シートを活用した引き継ぎの実施校数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
100%	100%	100%	100%	100.0%	
取組概要	<p>一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導や支援を行い、一貫した教育支援体制を構築するために作成・活用している。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>対象となるすべての子どもに対して支援ファイル及びシートを作成し、引き継ぎが行われている。教育支援計画との関連性を検討し、より効果的なものにしていく必要がある。</p>				

基本目標	1. 生きる力を育む就学前・学校教育の推進
	(4) きめ細かな教育の推進

施策名		①教職員の専門性・指導力の向上			
整理No	36	担当課	学校教育課	評価	—
成果指標	授業の内容がよくわかると回答した児童生徒の割合（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）【国語】 ※全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校85.0% 中学校63.7%	小学校94.1% 中学校68.1%	小学校 — 中学校 —	小学校85%以上 中学校70%以上	小学校 — 中学校 —	
取組概要	県指定事業・研修のほか、東部教育事務所指導主事による要請訪問等を最大限に活かして、授業改善に取り組んでいる。新学習指導要領の趣旨を目指して、校内研修、教科会・チーム会等で協働して取組を進めてきている。				
課題 （今後の方向性）	令和2年度は、指標を測るための全国学力・学習状況調査が中止となり、数値は未定である。今後も各種事業・研修会等を活かして、教職員の主体性と同僚性を発揮して「チーム学校」として、取り組んでいく必要がある。				
整理No	37	担当課	学校教育課	評価	—
成果指標	授業の内容がよくわかると回答した児童生徒の割合（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）【算数・数学】 ※全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校87.1% 中学校60.3%	小学校89.6% 中学校71.0%	小学校 — 中学校 —	小学校87%以上 中学校70%以上	小学校 — 中学校 —	
取組概要	県指定事業・研修のほか、東部教育事務所指導主事による要請訪問等を最大限に活かして、授業改善に取り組んでいる。新学習指導要領の趣旨を目指して、校内研修、教科会・チーム会等で協働して取組を進めてきている。				
課題 （今後の方向性）	令和2年度は、指標を測るための全国学力・学習状況調査が中止となり、数値は未定である。今後も各種事業・研修会等を活かして、教職員の主体性と同僚性を発揮して「チーム学校」として、取り組んでいく必要がある。				

施 策 名		②保育所・学校運営の充実			
整理No	38	担当課	学校教育課	評 価	A
成果指標	【再掲No. 10】 地域学校協働本部設置数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
4校	11校	11校	11校	100.0%	
整理No	39	担当課	こども課・学校教育課	評 価	C
成果指標	保育所・学校評議員連絡会（中学校区）の開催数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
2中学校区	2中学校区	1中学校区	4中学校区	25.0%	
取組概要	夜須小学校と夜須中学校は、合同で評議員会を開催したが、他の中学校区では開催していない。 それぞれの保育所・学校単位では、評議員会を開催している。				
課 題 (今後の方向性)	香南市保育所・学校評議員連絡会として、平成29年度までは中学校区ごとの意見交換の場を設けていたが、学校規模の違いなどから協議が難しいとの意見が出たことから平成30年度から協議の時間を設けていない。 小・中学校については、令和3年度から学校運営協議会に移行する予定。				
整理No	40	担当課	学校教育課	評 価	A
成果指標	【再掲No. 11】 コミュニティ・スクール設置数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
0校	3校	3校	11校	27.3%	

施策名		③生徒指導の充実			
整理No	41	担当課	学校教育課	評価	—
成果指標	【再掲No. 5】 学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組んでいる学校の割合（「よく行っている」と回答した学校の割合） ※全国学力・学習状況調査（学校質問紙）結果より				
平成27年度 （計画作成時）	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校50.0% 中学校75.0%	小学校57.1% 中学校50.0%	小学校 — 中学校 —	小学校70.0%以上 中学校80.0%以上	小学校 — 中学校 —	
整理No	42	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	学校に行くのは楽しいと思うと回答した児童生徒の割合（「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」回答した割合）				
平成27年度 （計画作成時）	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校86.4% 中学校72.9%	小学校91.0% 中学校71.8%	小学校91.5% 中学校87.0%	小学校90.0% 中学校80.0%	小学校101.7% 中学校108.8%	
取組概要	平成30年度に受けた「魅力ある学校づくり調査研究事業」を引き続き、市独自で全小・中学校で取組を進めてきた。各校の担当者を中心にPDCAシートを作成し、新たな不登校を生まない未然防止に向け、すべての児童生徒にとって「心の居場所」「絆づくりの場」となる学校を目指して取り組んでいる。				
課題 （今後の方向性）	小学校では目標数値を1.5pt上回り、中学校も7.0pt上回る結果となった。小中学校ともに昨年度と比べても1.0pt近く上昇しており、しかし、学級・学年によっては偏りが見られるので、今後も連携を図り取組を進めていく必要がある。				

施策名		④教育相談・支援体制			
整理No	43	担当課	学校教育課	評価	C
成果指標	【再掲No. 7】 不登校児童・生徒の割合（不登校児童・生徒数／総児童・生徒数）				
平成27年度 （計画作成時）	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校1.31% 中学校5.03%	小学校1.05% 中学校4.86%	小学校1.06% 中学校5.01%	小学校0.50%以下 中学校3.50%以下	小学校47.2% 中学校69.9%	

基本目標	1. 生きる力を育む就学前・学校教育の推進
	(5) 安全な教育環境での教育の推進

施策名		①防災教育等の推進			
整理No	44	担当課	こども課・学校教育課	評価	A
成果指標	多様な状況での避難訓練を計画的に実施できたか。				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	100.0%	
取組概要	防災教育に対する意識は年々高まっており、避難訓練においても、緊急地震速報を活用したり、授業中、休み時間、登下校中等多様な状況設定の下で、年間3回以上実施している。				
課題 (今後の方向性)	それぞれの園や学校の実態に適した、より実践的な避難訓練、高い当事者意識を持った児童生徒による避難訓練の実施に向け、発展継続させた取組が必要である。				
整理No	45	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	学校安全プログラムを活用した年間5時間以上の防災教育が実施できたか。 【学校安全チェックリスト(県調査)】				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
100%	100%	100%	100%	100.0%	
取組概要	年度当初の教育計画に防災教育の年間計画を位置づけ、学校安全プログラムを活用した年間5時間以上の授業を実践している。				
課題 (今後の方向性)	年度当初の校長会で確認するとともに、夏季休業中の防災教育研修会後の校内研修での共有を通して、児童生徒が当事者意識を持てるような防災教育、関係機関と連携した総合的防災教育の展開を目指す。				

施 策 名		②保育所、幼稚園、小・中学校の環境整備			
整理No	46	担当課	学校教育課	評 価	A
成果指標	小・中学校における非構造部材の耐震化				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
50%	90.9%	100%	100%	100.0%	
取組概要	令和2年度に野市小学校の非構造部材耐震化Ⅱ期工事が完了した。これにより市内全ての小・中学校における非構造部材の耐震化が完了した。				
課 題 (今後の方向性)	計画的に耐震化工事を実施したことにより目標を達成した。 今後は個別施設計画に基づき、適正な施設管理を行い、修繕や改修等を要した場合は速やかに対応する。				
整理No	47	担当課	学校教育課	評 価	A
成果指標	小・中学校におけるトイレの洋便器化				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
50%	100%	100%	100%	100.0%	
取組概要	令和元年度に野市中の洋便器化工事が完了し、全ての小・中学校の洋便器化が完了した。				
課 題 (今後の方向性)	計画的に工事を実施し、目標を達成した。 適正な管理を行い、修繕等を要した場合は速やかに対応する。				

整理No	48	担当課	こども課・学校教育課	評価	A
成果指標	通園・通学路の点検を定期的に行ってきたか。				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	100.0%	
取組概要	<p>小・中学校では、年1回通学路の安全点検を実施し、危険箇所については香南市通学路安全対策連絡協議会で合同点検を行い対策を講じた。</p> <p>保育所・幼稚園では現在、保護者の送迎による通園となっており、児童の通園路という概念がなくなったことから、指標から除外する。ただし、保育所・幼稚園の活動の中（お散歩など）で通る道路や、避難経路及び駐車場から施設までの通路等の点検は定期的に行っている。</p>				
課題 (今後の方向性)	危険箇所については、香南市通学路安全対策連絡協議会及び関係機関と連携し、危険の周知及び対策を迅速に実施する。				
整理No	49	担当課	学校教育課	評価	A
成果指標	学校内の施設等に関する安全点検が定期的に行ってきたか。				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
100%	100%	100%	100%	100.0%	
取組概要	教職員による毎月1回の定期点検を継続的に実施した。				
課題 (今後の方向性)	今後も毎月1回の安全点検を引き続き実施していく。				

基本目標	2. 生き生きと学ぶ生涯学習の推進
	(1) 生涯にわたり豊かな心を育む環境づくり

施策名		①ライフステージに対応した学習の充実 (家庭教育・学校教育・社会教育)			
整理No	50	担当課	生涯学習課	評価	D
成果指標	夏休み子ども教室の回数(参加者数)				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
21講座 (299人)	29講座 (358人)	0講座 (0人)	25講座 (310人)	回数0.0% 参加者数0.0%	
取組概要	学校以外での子どもの学習・体験活動の機会の創出・拡充のため各公民館で主に小中学生対象の夏休み教室を開催している。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、教室を開催することができなかった。				
課題 (今後の方向性)	学年・男女に関係なく参加できることを念頭に置いて開催しているが、開催地でない赤岡・吉川からの参加者が少ない。 今後の取組みとして、各学校へのPRを強化し更なる参加を促す。また、市民館等での出張教室の開催について検討する。				
整理No	51	担当課	生涯学習課	評価	D
成果指標	三世代交流事業参加者数(凧揚げ等)				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
1,000人	1,300人	44人	1,000人	4.4%	
取組概要	◆青少年育成事業として三世代交流凧揚げ大会・三世代交流事業等を開催している。新型コロナウイルス感染症により凧揚げ大会は中止、親子交流事業(サイクリング大会)は44人の参加があった。 ◆地域密着型の三世代交流により、地域活性化を推進する。				
課題 (今後の方向性)	現在行っている凧揚げ大会や親子サイクリングなどは屋外事業で天候によって参加者数の変動が大きい。今後参加者のニーズを把握し雨天対策や屋内活動の検討など行っていく必要がある。				

施 策 名		②生きがいを得る学習機会の充実			
整理No	52	担当課	生涯学習課	評 価	D
成果指標	いきいきセミナーの開催回数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
4講座	4講座	0講座	4講座	0.0%	
取組概要	<p>市民の学習意識を高めるため、各種分野からテーマを選定した上で著名人を含めた4回の講演をセミナーとして開催する計画であったが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、開催できなかった。 4講座の内訳：人権教育1回、生涯学習3回で開催</p>				
課 題 (今後の方向性)	<p>著名人の講演は集客力があるものの、アンケートでは専門的分野の講師の方が評価が高い。今後もそのバランスを考慮したうえで講師を選考し周知していく。</p>				
整理No	53	担当課	生涯学習課	評 価	C
成果指標	生涯学習人材バンクの登録者数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
0人	28人	28人	200人	14.0%	
取組概要	<p>様々な分野において豊富な経験や資格を持っている市民や団体の情報を「人材バンク」に登録し、市民の生涯学習活動や学校活動における教育活動等を支援するために、指導者やボランティアとして紹介する制度。</p>				
課 題 (今後の方向性)	<p>依頼内容等の住民向けの広報活動（ボランティアの内容などを含め広報やHPでの周知）をはじめ、この制度や活動内容の周知を継続して実施していく。</p>				

施 策 名		③現代的課題に対応した学習機会の充実			
整理No	54	担当課	生涯学習課	評 価	D
成果指標	各種教室の開催回数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
161回	116回	57回	170回	33.5%	
取組概要	<p>子どもから高齢者まで、様々なテーマに基づき教室を開催している。また、地域講師を中心に、人材育成につながる教室も開催している。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策として定員数の削減を行い実施した。</p>				
課 題 (今後の方向性)	<p>より多くの方に参加してもらえるように、ニーズを把握した上での内容・講師選定を行い、公民館ごとの連携、広報手段の見直しをする必要がある。</p>				
整理No	55	担当課	生涯学習課	評 価	D
成果指標	各種教室の延べ参加者数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
4,530人	4,292人	1,552人	4,700人	33.0%	
取組概要	<p>子どもから高齢者まで、様々なテーマに基づき教室を開催している。また、地域講師を中心に、人材育成につながる教室も開催している。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策として定員数の削減を行い実施した。</p>				
課 題 (今後の方向性)	<p>より多くの方に参加してもらえるように、ニーズを把握した上での内容・講師選定を行い、公民館ごとの連携、広報手段の見直しをする必要がある。加えて、感染症対策を行い、安心して参加してもらえる環境づくりに取り組む。</p>				

施 策 名		④学習施設の整備			
整理No	56	担当課	生涯学習課	評 価	C
成果指標	図書館の入館者数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
68,825人	64,831人	44,425人	80,200人	55.4%	
取組概要	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止により、4月9日から5月11日まで休館した。また、閲覧室の座席数の制限を行っている。貸出冊数を5冊から10冊に増やした。				
課 題 (今後の方向性)	感染状況の終息を見据えた再度の取り組みの強化と、一時的に中止されていたイベントや講座を早期に再開させ、入館者数の回復、増大を図る。10代、20代の利用者が限定的であるため、対象年齢層も考慮したお勧め図書の提案などとあわせ、各種イベントの周知方法や集客方法の改善を図る。他方では、今回の状況をふまえ、来館者数よりも実利用者数の拡大に注力した企画を実践して行く。				
整理No	57	担当課	生涯学習課	評 価	B
成果指標	図書館の貸出冊数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
116,714冊	109,339冊	107,577冊	130,000冊	82.8%	
取組概要	コロナ禍での影響を極力緩和させるために、可能貸出冊数を5冊から10冊に変更するなど対策を行った結果、実績の落ち込みを最小限にとどめることができた。				
課 題 (今後の方向性)	野市、香我美両図書館の資料収集方針を明確化し、利用者にとって利用価値の高い蔵書構成に努めるとともに、休館日を減らし、利便性をも高めることで貸出冊数増加につなげる。				

施策名		⑤地域に密着した学習の場の提供			
整理No	58	担当課	生涯学習課	評価	D
成果指標	地区公民館等の利用者数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
40,622人	52,739人	21,192人	42,000人	50.5%	
取組概要	地域の集まりの中心となる地区公民館を維持し、公民館活動を支援していく。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策として施設の定員数を削減し実施した。				
課題 (今後の方向性)	地域により高齢化や実践行事で公民館の利用状況は異なるが、今後も各地区の公民館運営協議会やまちづくり協議会と連携していく。				

施策名		⑥生涯学習推進組織の整備			
成果指標	成果指標の設定なし				

施策名		⑦情報提供・相談機能の強化			
整理No	59	担当課	生涯学習課	評価	A
成果指標	生涯学習課ホームページ更新回数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
13回	78回	56回	50回	112.0%	
取組概要	図書新刊情報、各種教室・大会案内やスポーツ大会の結果報告等の更新を実施している。				
課題 (今後の方向性)	大会開催前後に情報更新しているが、市民により分かりやすい内容で最新情報を常に更新するよう取り組んでいく。				

施 策 名		⑧指導者の育成・人材活用			
整理No	60	担当課	生涯学習課	評 価	C
成果指標	読書ボランティア等登録者数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
76人	93人	52人	100人	52.0%	
取組概要	読書ボランティア養成講座の休止や住居移転によるボランティア団体からの退会などで登録者数が減少している。育成のための講座等は早期に復活させ、再度の取り組み強化を図る。				
課 題 (今後の方向性)	読書ボランティア養成講座の講座内容の見直しを行い、幅広く人材を募集、登録者数アップにつなげて行く。				
整理No	61	担当課	生涯学習課	評 価	C
成果指標	【再掲No. 53】 生涯学習人材バンクの登録者数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
0人	28人	28人	200人	14.0%	

施 策 名		⑨生涯学習を通じての地域づくり			
整理No	62	担当課	生涯学習課	評 価	D
成果指標	【再掲No. 50】 夏休み子ども教室の回数 (参加者数)				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
21講座 (299人)	29講座 (358人)	0講座 (0人)	25講座 (310人)	回数0.0% 参加者数0.0%	

施 策 名		⑩全ての人と共生する生涯学習の推進			
整理No	63	担当課	生涯学習課	評 価	B
成果指標	社会体育施設の障害者用トイレの整備				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
5箇所	7箇所	7箇所	8箇所	87.5%	
取組概要	障害者のスポーツ活動を促進するため、社会体育施設に障害者用トイレを計画的に整備する。(令和2年度は未実施)				
課 題 (今後の方向性)	利用状況にもよるが、現状の施設内で障害者用トイレのスペースを確保できない場合は、障害者用トイレにはならないが、和式トイレの洋便器化を図っていく。				

基本目標	2. 生き生きと学ぶ生涯学習の推進				
	(2) 文化の継承と振興				

施 策 名		①芸術・文化活動の推進			
整理No	64	担当課	生涯学習課	評 価	D
成果指標	公民館自主事業(舞台・演奏公演)の実施回数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
6事業	6事業	0事業	6事業	0.0%	
取組概要	公民館活動として日頃鑑賞できない舞台・演奏公演を企画し、文化意識の向上を図る。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止した。				
課 題 (今後の方向性)	子ども向けの企画も含め、市民のニーズをしっかりと把握し、より関心の高い内容を企画し実施していく。				

整理No	65	担当課	生涯学習課	評価	D
成果指標	文化協会支援事業（文化祭・芸能大会等）				
平成27年度 （計画作成時）	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
14事業	13事業	3事業	14事業	21.4%	
取組概要	市民の文化活動を高めるため、文化協会が関わる展示や芸能の文化祭活動、その他大会を支援する。				
課題 （今後の方向性）	新型コロナウイルス感染症の影響により、ほとんどの文化祭が中止となった。今後も新型コロナウイルス感染症の感染状況をみながら大会実行委員会及び文化協会と連携して文化祭活動の取り組み、支援を行う。				
整理No	66	担当課	生涯学習課	評価	B
成果指標	市美術展覧会の入場者数				
平成27年度 （計画作成時）	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
1,264人	1,089人	1,451人	1,500人	96.7%	
取組概要	写真、書道、絵画、工芸などの愛好者の作品発表と鑑賞の機会のため、展覧会を開催する。 新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を実施しながら、令和3年1月に前期・同2月に後期を開催した。				
課題 （今後の方向性）	出品者の高齢化（平均74歳）に伴い、年々減少傾向であり令和元年度実績は、177人まで落ち込んだが、令和2年度は、新規の方20人、高校生が6人の出展があり208人まで復活した。しかし、県内の公募展も全体的に出品者数が減少しており、市展自体の見直しを考える必要がある。 今以上に、高校生の参加を促し、城山高校のデザイン部や漫画部への出展依頼を行う。また、令和2年度から市展のポスター制作を城山高校へ依頼しており、高校生により身近な地元の展示会にしていく。				

施 策 名		②郷土の歴史・文化遺産の保存と継承			
整理No	67	担当課	生涯学習課	評 価	C
成果指標	文化財ボランティアガイド登録者数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
42人	10人	10人	50人	20.0%	
取組概要	<p>香南市文化財を広く伝えていくため、ボランティアガイドを養成し、ガイドの登録を増やしていく。</p> <p>国重要文化財安岡家住宅の一般公開が始まり、公開前に1～2回打ち合わせを行ってガイドの充実を図っている。また広報等でボランティア募集をしている。</p>				
課 題 (今後の方向性)	<p>ボランティアガイド登録者数のうち実働している者が高齢化等の理由で少なくなってきたことから、国重要文化財安岡家住宅の一般公開に向けボランティアガイドの再編成を行ったため登録者数が減少した。</p> <p>今後もボランティアガイドの募集を呼びかけ、実働できる人材を養成する。</p>				
整理No	68	担当課	生涯学習課	評 価	C
成果指標	文化財啓発事業の実施回数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
7回	6回	4回	10回	40.0%	
取組概要	<p>文化財の重要性を後世に啓発していくため、遺跡発掘調査説明会、夏休み文化財教室、文化財講座などを実施していく。</p> <p>安岡家住宅一般公開3回、文化財めぐり1回を開催した。</p>				
課 題 (今後の方向性)	<p>新型コロナウイルス感染防止対策のため夏休みこども文化財教室や文化財講座は実施できなかったため、開催回数が減少している。今後も新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながら、香南市文化財に関し市民に向けての各種教室や講座を展開し、体験活動や周知啓発活動の取組を進める。</p>				

整理No	69	担当課	生涯学習課	評価	C
成果指標	小・中学校への出前講座の実施回数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
2回	1回	1回	5回	20.0%	
取組概要	市内の文化財や戦争遺産などを後世に伝え残していくため、小・中学校への出前講座等を実施する。 佐古小学校：6年生平和学習（出前授業）				
課題 (今後の方向性)	戦争遺産などを解説し平和について考える講座を希望する小・中学校へ講師を派遣しているが、講師の確保等の状況により積極的な事業周知が行えない場合がある。				

基本目標	2. 生き生きと学ぶ生涯学習の推進
	(3) 生涯にわたり親しみ高めあうスポーツの振興

施策名	①生涯スポーツ・競技スポーツの推進				
整理No	70	担当課	生涯学習課	評価	A
成果指標	市長杯等の参加者数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
480人	873人	729人	590人	123.6%	
取組概要	参加者が競い合うことにより技能の一層の向上が期待できると認められる各種スポーツにおいて、参加者数など一定の大会規模を満たす大会に市長杯を付与することで、スポーツへの関心、参加者の増加、技能の向上などを図っている。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の大会が中止となったことで前年度と比較して参加者数が減少している。				
課題 (今後の方向性)	運営者や競技者の高齢化により大会の維持が難しくなっている競技種目もある。また、参加者数は年度により変動があるが、競技人口はいるので周知徹底し参加を促していく必要がある。				

整理No	71	担当課	生涯学習課	評価	A
成果指標	スポーツ教室延べ開催数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
179回	462回	496回	180回	275.6%	
取組概要	<p>こうなんスポーツクラブへ委託し、市民ニーズを把握したうえで指導競技の内容や回数など企画立案し、教室活動を実施する。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>今後も市が力を入れるスポーツ、生涯活動に効果的な対象者を見極めるため、こうなんスポーツクラブと連携してニーズを把握し、事業を実施していく。また、スポーツ人口の拡大を図るため、軽スポーツを新たに取り入れる。</p>				
整理No	72	担当課	生涯学習課	評価	D
成果指標	市民ウォーキング大会参加者数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
80人	72人	0人	290人	0.0%	
取組概要	<p>高齢者でも気楽に行えるウォーキングを通し運動習慣を身につけてもらえるように健康ウォーキング大会やツデーウォーク大会を開催する。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、ツデーウォークと健康対策課主催の健康ウォーキング大会が中止になった。</p>				
課題 (今後の方向性)	<p>健康対策課で各町2つの推奨コースマップが完成したことで、健康ウォーキング大会は毎年場所を変えながら実施していく。ツデーウォークは香南市民の参加が非常に少ないため、今後周知方法や参加料などの見直しを検討していく。</p>				

施 策 名		②スポーツ環境の充実			
整理No	73	担当課	生涯学習課	評 価	B
成果指標	体育施設（学校開放施設含む）の障害者用トイレ設置数				
平成27年度 （計画作成時）	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
8箇所	11箇所	11箇所	17箇所	64.7%	
取組概要	障害者のスポーツ活動を促進するため、社会体育施設、学校開放施設に障害者用トイレを計画的に整備する。（令和2年度は未実施）				
課 題 （今後の方向性）	利用状況にもよるが、現状の施設内で障害者用トイレのスペースを確保できない場合は、障害者用トイレにはならないが、和式トイレの洋便器化を図っていく。 学校開放施設の整備が進んでいない。各学校と、利用団体と調整を図り整備計画の見直しを図る。				
整理No	74	担当課	生涯学習課	評 価	A
成果指標	ウォーキングコースの設定箇所数				
平成27年度 （計画作成時）	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
6コース	10コース	10コース	10コース	100.0%	
取組概要	高齢者でも気楽に行えるウォーキングを通して運動習慣や健康増進を推進するため、健康対策課で各町ロング・ショートの2コースを設定（平成30年度に設定済み）し、パンフレットを作成して、啓発を行っていく。				
課 題 （今後の方向性）	健康ウォーキング大会時に健康対策課が作成したコースマップを活用して、啓発を継続的に行っていく。				

施 策 名		③スポーツ指導者の育成・人材活用			
整理No	75	担当課	生涯学習課	評 価	A
成果指標	スポーツ少年団認定指導員資格取得者数				
平成27年度 (計画作成時)	令和元年度	令和2年度	令和3年度末 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
64人	81人	84人	75人	112.0%	
取組概要	<p>◆スポーツ少年団の育成指導にあたる「スポーツ少年団認定員」を増やしていくことで、技能の向上を図っていく。</p> <p>◆スポーツ教室及び各種スポーツ大会の開催や各種スポーツクラブの育成支援。</p>				
課 題 (今後の方向性)	<p>各団体に2名以上のスポーツ少年団認定員が必要で、その確保とあわせ、団員数が多い団体へは更に手厚く指導できる体制を構築していくため、認定員の資格取得を促す必要がある。</p> <p>今後の取組みとして、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技種目において認定指導員のばらつきがあり、今後の安定した指導者確保のために、各団体と連携し講習等の案内を周知していく。 ・各団体へ県スポーツ少年団からの認定講習会情報日程を流し講習会への参加を呼びかけ、取得を促す。 				

6. 学識経験者からの意見

(1) 評価の分類構造と方法について

本報告書は、令和2年度の香南市教育委員会の活動実績を、外部評価委員として客観的に精査し、評価したものである。コロナ禍で、教育活動全般が思うに任せない状況の中で、全体評価ができる状況まで達したことは、当該教育委員会が日常的にその活動を真摯に取り組んできた成果であり、まず持ってこの点を衷心より讃えておきたい。

報告書の内容は、昨年までと同様に教育委員会内の活動と管理執行事務を記述した項目分類として、「1. 教育委員会の活動、2. 教育委員会が管理・執行する事務」と題された部分と、「3. 管理・執行を教育長に委任する事務」の教育制度全般を運営する事項の評価に大別されている。

なお、後者の教育制度管理運営・執行に関する評価についても、従来通り学校教育制度に関わる部分と生涯学習制度に関わる部分の「成果の指標の点検・評価」に分類され、それぞれ結果の一覧表とその詳細記述部分が付加されている。ここまでは、昨年までとほぼ同様の自己点検・評価の記述方法を踏襲している。

昨年までに比して革新した点がある。これまでの取り組みを一層充実させるために、教育委員会は今年度から各大項目の後に、「[評価]」項目を新規に設定し、質的な評価記述を新たに加えている。これは、外部評価委員として昨年度までに要望した内容を汲んで、真摯に対応し、新しい評価の質的視点を加えて教育委員会の諸活動をレベルアップしようとする新しい取り組みであり、このような姿勢は高く評価しておきたい。

全体を俯瞰すると、今年度も昨年までとほぼ同様の評価項目が踏襲されてきており、A～Dのアルファベット評価と数値評価の方法が定着し、一般読者にもわかりやすい指標を継続的に使用していることは評価できる。昨年までは、これらのわかりやすい評価に比して、その年に力点をおいて追求してきた課題や、重点的に克服してきた課題の評価などが分かりにくくなっていた。この点では、先に述べたように評価方法に改善を加えて、当該年度に重点的に取り組んできた課題に対しても質的評価の記述項目を設定したことで、重点課題の評価もこれまでよりはわかりやすく記述している。これも改善点として認められる。ただし、課題は全て解決したわけではなく、残存している問題点は最後に付加したい。

また、客観的な評価を推進する意味からも、数値による評価と年次経過の段階を見すえて、実行率何%という数値の明示を継続していることは高く評価できる。しかしながら、これらの数値的な評価をする場合には、長期的な視点と短期的な視点を複眼的に比較評価することが特に重要だが、この点では若干教育委員会の評価基準は曖昧な部分を未だに残している。取り組みから3年程度の経過と、目標値に対する達成度を継続的に記述している点は評価できるが、10年ごとの教育振興基本計画を考え合わせると、中間位置の5年あるいは最終目標設定年の10年間目標値に照らした到達点も見えやすくすべきではないであろうか。

詳細は後述するが、一例を挙げると48ページの「②確かな学力の育成」という項目の中で、整理No. 20の「学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している学校の割合（『よく行っている』と回答した学校）」という項目は、今年度コロナ禍のため調査がなされなかったこともあり、評価は「-」（無しという意味）となっており、また整理No. 21の「ICT機器を活用した校内授業研修を実施したか」という評価項目では、令和元年と2年度はどちらも100%の達成度となっており、評価は前年度と同様Aのまま継続している。だが、課題項目の記述を詳細に見ると、「教職員のスキル獲得が急務」で「効果的な」研修を企画し

ていく必要性を令和元年も2年も継続して説いている。このような課題が見出されるのであれば、数値が100%の達成度であっても、そのままA評価が2年連続で継続することになるのであろうか。研修が急務であるということは、機器は使いこなされているのか、甚だ疑問である。また、ICTの機器活用は、児童生徒の自主的な学習活動が進展するように教師が方向性を見定めた上で活用すべきであり、あくまでも児童生徒が主体的に使いこなせるレベルを見据えて対応すべきである。目標が教師の運用能力に偏っているが、児童生徒の視点で評価すべきであろう。この点では、これらの数値的評価と質的、記述評価に一定の乖離があるとみられても仕方ないし、100%という評価とA評価はうわべ、表面のみの評価とみられる恐れがある。特に、令和2年度は国の推進するGIGAスクール構想によって機器の普及は当然のことであったゆえ、いっそうその内実がどのように反映したのかがわかる評価とすべきであろう。今後一層、評価内容の充実と再検討が期待される。

つまり、経年比較による数値解釈と記述的説明が双方の相関を考慮した上で丁寧になされるべきであり、今後のために評価基準を一層わかりやすくするとともに、文書によって質的な側面の説明を考慮した上で、数値を割り振る必要があるだろう。

このように、評価・点検の中心となる「管理執行を教育長に委任する事務」の内容については、以上のような数値的評価を追求しながらも、質的な評価が決定的に重要で有り、質と量の評価が十分に内容実態に沿っていることが求められることから、記述や分類の方法に一層の工夫を凝らす方向性について再考する必要がある点は、昨年度と同様に指摘しておかなければならない。

以上のように、従来の評価を改善し、質的評価の記述項目事項を付加したり、数値的項目の整理、わかりやすさの追求など、高評価を与えられる部分も多いが、逆にこれまでの既述分類方式を踏襲し、新しい項目の付加や、項目そのものの再分類の方式は余りとられておらず、ともすると当該年度に特色のある課題が分かりにくくなっている部分もあることや、上記のように経年比較による評価の解釈が曖昧な部分がまだ残されている。要するに、漸進的改善が見られ、評価もできるが、総体的には評価システム改善の途上にあるということである。

今年度は、特別に評価の方法の最後に指摘し、強調しておかなければならない点がある。それは、衆目の一致するところであるが、令和2年度はコロナ禍のために市教委管轄下の学校においては2ヶ月間もの休校措置を強いられ、またこれらの休校によって遅れた学習速度を取り戻すために、夏休みを返上して課題に取り組まなければならなかった。それゆえ、通常の年度の評価とは、区別して考慮しなければならない点が多々ある。

特に、香南市教育委員会のように、積極的に新しい評価方法を取り入れ、課題に取り組んできた組織は、評価の数値やA～Dのアルファベット評価値は下がる傾向が否めないし、その数値と評価点だけをみて分析することはコロナ禍の状況に照らして、適切ではあるまい。この点、評価を試み、これらの文章を参考にして、今後の教育に取り組む課題を負う方々には特に注意を喚起しておきたい。評価点や、評価値が下がったことを問題とすることは、今年度の評価の焦点にはならない、ということである。

例えば、36頁以降にある「4. 成果指標の点検・評価結果一覧表」で見ると、学校教育全般の評価である「1. 生きる力を育む就学前・学校教育の推進」項目では、前年度の評価よりアルファベット評価が下がった（例えば、A→Bのように）例が10項目に及ぶ。また、生涯学習全般の項目を扱っている「2. 生き生きと学ぶ生涯学習の推進」項目では、同様に評価の下がった項目が13項目にも及ぶ。無論、コロナ禍で取り組むことが不可能であったというだけではなく、先程の記述のようにコロナ禍の中でも不断に学習を継続していける条件整備を新たに構築すべきであり、その推進力こそを教育関係者は新たに身につけて子ども達

と市民の成長発達を促していく必要がある。

これらの非常事態に対峙した結果、今年度は評価項目の下がった数値や、その数が示す問題等に言及するよりも、これらの非常事態に備えて評価が下がった項目がなぜ影響を受けやすかったのか、またコロナ禍の中でも子どもや市民全体の学習を保障し、制度的運用を継続するにはこの現象の中から何を学び取らなければならないのか、この点が肝要であろう。つまり、非常時の自己点検・評価には、評価が下がったことをあげつらうのではなく、その現象から学びとって今後の学習制度の拡充に備える点を加えられなければならないであろう。さて、既述のような観点を十分に踏まえた上で、市の教育状況を鑑み、これらの諸点はどのように検討され、評価が実施されているか、以下の項目で分析評価してみよう。

(2) 評価

1) 教育委員会の活動と教育委員会が管理・執行する事務について

これらの項目については、実際の活動記録となっており、例年通り活動の実態を記述一覧している。特段、問題なく、事実関係の羅列と実際の活動記録となっていることは従来の記述方式を踏襲しており、格段に新しい記述や羅列の方式に改める必要は無いと考えられる。

先の「評価の分類構造と方法」について、既述したように、今年度から記述の評価が付加され、評価の実態がわかりやすくなっている点は評価できる。特にこの項目でも、コロナ禍において教育委員の研修については「計画されていた研修が全て中止となった」ので、今後は「オンライン研修に参加するなど研修機会の確保に取り組む必要がある」などの質的評価が見られるようになったのはよかった。ただし、その内容はもう少し評価基準を明確にし、なんのために、どこの到達点を目指しているのかについては、理解しやすくすべきであろう。

委員会の開催回数や、協議内容が時代の求める状況に応じて、どのように評価・点検されるべきかということも含めて、昨年度と同様の指摘となるが、次年度以降は記述や分類の方法を少し改善することも求められよう。

特に、前年度との繰り返しになるが、香南市教育委員会が近年取り組んで来た南海トラフ大地震の対策に関する事項と、香南市の将来的な教育像を描く際に明示すべきビジョンに関わる事項は、項目立てをして評価活動を行ってもらいたかった。また、今後のコロナ禍の中での教育活動の発展を考えるためには、新しい関連項目立ても必要となるであろう。次年度からのイノベーションに期待したい。

2) 管理・執行を教育長に委任する事務

この項目は、従来通り学校教育制度の管理・執行に関わる部分と生涯学習制度の管理・執行に関わる部分に大別されている。

これらを項目ごとに評価すると、第一部の学校教育制度に関わる部分では、今年度は全49項目にわたって詳細な記述と数値の評価・点検、また目標達成度が明示されている。詳細を示すと、それぞれA評価が18項目（昨年度は23項目）、B評価が15項目（昨年度は24項目）、C評価が5項目（昨年度は0項目）、D評価が2項目（昨年度は0項目）、未評価9項目（コロナ等で評価が困難であった項目）となっている。一見して理解できるように、全体に評価が下がっているが、前述した通りコロナ禍によるものが多く、教育委員会の努力不足とは言えない。ただし、これらの評価から将来的に何を学んで、今後活かす評価としたのかについては、後に詳述する。

なお、令和元年度とほぼ同じ項目で評価していることから、二カ年の経年評価をみると、

A評価からB評価に下がった項目が5項目、逆にB評価からA評価に上がった項目が3項目ある。B評価からC評価に下がった項目は3項目で、逆にC評価からB評価に上がった項目は0である。一見して全体に評価が下がっている傾向が分析可能だが、コロナ禍の影響で評価の項目を達成するだけの調査も不足しており、コロナの状況を除くと活動の実数は昨年度と変わっていないと考えられる。繰り返しになるが、この状況をどう判断し、ここから何を学ぶかが重要である。

特に、これまで教育委員会が長年取り組んで来た地域における連携、学校諸機関の連携、中でも保幼小中連携教育の推進する諸活動については、昨年度まで高い評価が与えられてきたが、極めて正当な評価であった。今年度では、これらの活動がコミュニティスクールの設置と地域学校協働本部数の設置という項目で集約され、どちらもA評価となり、1項目は昨年度のBからA評価となっている。

ただし、前項目でも記述したが、これらの評価は数字のみを見ると正当なものに見えるが、その質を見ると、別の評価も加えられるべきであろう。これについては、後に詳述したい。

また、生涯学習制度の管理・執行に関わる部分では、それぞれ同様にA評価が5項目（昨年度は11項目）、B評価が3項目（昨年度は10項目）、C評価が7項目（昨年度は5項目）、D評価が9項目（昨年度は0）となっている。ここでも、一見して評価は全体的に著しい減少傾向にあり、実践的目標値をクリアーすることにかなり苦戦しているように思われる。評価が下がった項目だけで13項目に及んでいる。ただし、これらはコロナ禍の影響を受けやすい生涯学習・教育の部門でも、成人の中でも高齢期の市民を対象とした教育活動については、1年間を通じてほぼ実施できなかった活動が多いことから状況は想像にかたくな。

この状況をどのように評価すれば、コロナ禍においても正当な評価になりうるであろうか。この点で、明確に読み取れる事実は、香南市の生涯学習・教育部門は、今回のようなコロナ禍の影響を受けやすい管理構造にあり、インフラや、全体の管理運営構造を含めて危機対応に備えた機器の準備や、ICT環境の構築、また運用対応が十分になされておらず、今後長期的にコロナ禍と向き合っていかなければならない我が国の状況からすると、短期、中期、長期的に南海トラフの地震対策のような構造的な目標設定と改善が必要となっているということである。特に、昨年度までも継続的に目標が達成されず、一定放置された状態になっている項目であった「生涯学習人材バンクの登録者数」、「文化財ボランティアガイドの登録者数」など、今後の生涯学習を支える人材育成に関わる項目が軒並み低評価であったことは、ハード面での脆弱さに加えてソフトの面でも将来に不安を残している。これは、人口が長期的に減少し、少子化が進み、市の教育を生涯にわたって支えるには教育関係の専門職では心許ない状態で有り、市民参加による教育活動の支援が不可欠の状態から判断すると、余りにも低レベルの到達度と言わざるを得ない。今回のコロナ禍における評価の著しい減少傾向を教訓に、次年度以降の対応を見守りたい。

市の将来的な教育発展を願う立場から、これまで少し厳しい評価をしてきたが、数値の評価全体を振り返ってみると、学校教育制度に関わる事項では、コロナ禍の中では一定の成果を達成しており、総体的に評価が減少傾向にあるとは言え、学校教育の運用については一定の水準を守って対応できたとも評価してよいであろう。

また、生涯学習制度の項目に関する評価に関しては、全体的にコロナ禍において評価の著しい減少傾向が示され、その質的内容を精査すると前述したとおり、危機対応を含め、今後一層の努力を要する段階であると言える。

次に、詳細記述を含めて、これらの制度運用上の評価を子細に分析してみよう。特に、制度の運用管理面の質的側面をみる。近年、香南市の教育課題で強調されるのは、不登校児童

生徒数の削減や、基礎学力の定着、また教職員の働き方改革を含めた学校マネジメント力の一層の向上、生涯学習制度の一層の推進などの問題である。これらの教育課題に絞ってみると、一部のコミュニティスクール推進などの項目を除いて、前年度までと比較してA評価が多くなっていることが分かる。しかし、この点では本評価者は香南市の二つのコミュニティスクールの運営協議会の委員として、これらの活動を支えていることから、運営協議会を通じたコミュニティスクールの活性化は未だ途上であり、特に運営協議会の全体的な実行力が不足しており、学校の全般的改善にも中々繋がっていないと思われる。特に、各学校が抱える問題や課題を運営協議会で話し合い解決の方向性を議論しても、2、3年経っても中々事態は進展しておらず、根幹であり、権限も付されている予算財政権限も中々実施まで至っていない。つまり、その質を担保した評価になっておらず、表面的数値のみの評価基準では、意味をなさない時点まで事態は展開してきていると思われる。この点では、今後さらに質的評価をどのように付加し、全体を改善目標に近づけるか再考を促したい。

また、詳述の質的内容を併せて分析すると、これらの課題項目については一層の努力を必要とする記述が多数見られることも前年と同様である。特に、生涯学習制度の側面では、推進できていない課題も多く、記述欄にもこれらの課題を再び明示している箇所が目立つ。

昨年度の評価と同様の指摘をせざるを得ないが、項目全体を通して、教職員の働き方を刷新し、時間的余裕と課題への対応教職員の配分を見直せるような、新しい評価項目を入れつつ、これらの従来の課題解決との相関を図ることが求められているのではないだろうか。

コロナ禍において推進されざるを得なかったGIGAスクール構想は、子どもの教育活動面だけでなく、ICTを教職員間で一層活用し、高いレベルで教育条件を整備できるように評価するための「自己点検・評価」の仕方を、新設することを必要としている。

学校教育制度面だけでなく、生涯学習制度面でも、教職員全体の働き方を見直しつつ、自己点検・評価を通して、新しい形態でこれらの活動を推進していけるような評価分類を取り入れつつ、解決の方策を見いだす一助とすることが必要であろう。特に、次年度にはこの点での進展が見られることを期待したい。

(3) 総評

昨年度同様に、各論で述べてきたことを若干繰り返すことにもなるが、全体的な委員会活動を評価する際には、その時々的重要な課題があり、また併存してルーティンワークとして維持・発展させていかなければならない課題項目が存在する。

今後の市の教育状況の一層の発展を祈念しつつ、以下の諸項目を重点課題として評価するような項目立てを検討していただきたい。

- ① 香南市がめざしている地域に開かれた、コミュニティスクールの創設と学校運営協議会の活動の発展、また生涯学習機関を支える市民活動や、ボランティア活動の充実発展に関わる項目の創設と詳細な評価を期待する。特に、学校運営協議会の発展のための評価項目の付設。
- ② 将来の人口減少、少子化傾向が変化することは困難であることから、教育の質を担保すべく、学校の適正規模の推進項目の新設。また、災害や南海トラフ大地震に備えた学校の制度的保障を何年かけて実施し、各年度ではどこまで達成していくのか等の年次計画と項目ごとの評価を作成し、市民の協力の下で新しい評価を行うこと。（昨年度の評価と同項目）
- ③ GIGAスクール構想が実施されたことによる、児童生徒の自己学習の進展と、教職員のICT利用による働き方改革の指標化を評価する項目立て。
- ④ コロナ禍やその他想定外の災害等の状況下にあっても、児童生徒や、一般市民がITを

駆使して、学習を進化させるための評価項目。（前年度と同項目）

今年度はコロナ禍にあって、教育委員会の支援活動、指導助言活動の推進は困難を極めた。その中であって、香南市の教育委員会は本当によく教育成果を維持されたと衷心より感謝いたします。

ただし、時々の中核的な課題を市民に分かりやすく明示し、市民自らこれらの課題推進の強力な主体となって教育機関を支えてもらうには、今後の教育委員会の自己点検・評価活動の一層の進展が待たれるところである。

以上

外部評価委員 高知工科大学教授 中村直人